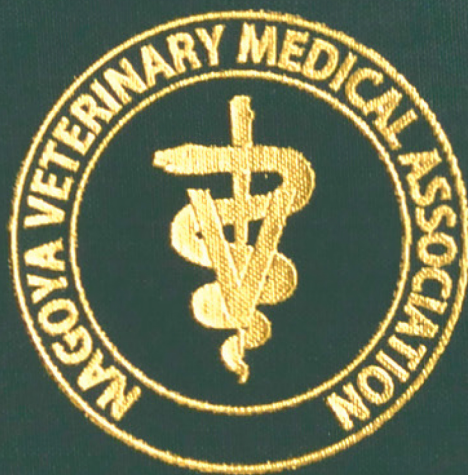


名古屋市獣医師会  
五十周年記念誌



公益社団法人 名古屋市獣医師会

名古屋市獣医師会  
五十周年記念誌

公益社団法人 名古屋市獣医師会

# ご挨拶

公益社団法人 名古屋市獣医師会 会長 荻 曾 敏 之



このたび、公益社団法人名古屋市獣医師会は創立 50 周年を迎えることとなり、その記念誌発刊にあたりご挨拶申し上げます。本会は、1951 年（昭和 26 年）社団法人愛知県獣医師会の名古屋支部として発足し、翌年から支部名を名古屋市獣医師会と改めました。そして 1965 年（昭和 40 年）6 月、愛知県から社団法人の設立を許可され、翌 7 月の総会よりスタートしました。その後、国の公益法人制度改革により 2011 年（平成 23 年）4 月、公益社団法人に移行し、新たな組織のもとに公益目的事業を中心に様々な活動を展開しています。こうして半世紀という節目を迎えられましたのも、本会の設立から現在までの発展にご尽力いただいた諸先輩方、会員の皆様に対し厚く御礼申し上げますとともに、継続的にご指導ご支援を賜りました愛知県、名古屋市、（公社）日本獣医師会はじめ関係諸団体の皆様にも改めて深く感謝申し上げる次第です。

本会は、前述の公益申請にあたり事業内容を精査した結果、公益目的事業として三つの柱を定めました。それらは、まず「狂犬病を始めとする人獣共通感染症対策等の公衆衛生事業」そして「動物愛護精神の普及啓発を図る目的の救急獣医療等の事業」さらに「獣医学術の振興・普及を目的の研修、講習、認定と学校飼育動物支援の事業」の三本です。それと同時に活動を支える拠点としての名古屋市獣医師会館の運営も重要な事業と考えています。これらの公益目的事業の占める比率は、85%以上で、予算規模も 1 億 7000 万円以上であって、会員一人一人に大きな負担をお願いしているのが現状と言えます。

本会は、名古屋市内で小動物診療に係わる獣医師わずか 100 余名の在籍する正会員を中心に事業運営していますが、その他に、企業団体、臨床研修獣医師、動物看護師（学生を含む）、動物飼主の皆様など合わせて 200 名以上の賛助会員に入会いただき、それぞれ関連する事業の実施にあたって物心両面からいろいろと支援を受けています。地方会の中でもこれらの都市型獣医師会の特徴を活かし、より直接的、積極的に一般市民に向けて社会貢献を果たすべく各事業に取り組んでいく所存ですので、今後とも皆様方には引き続き私共にご支援ご協力の程お願い申し上げます。

# 祝 辞

---

# 公益社団法人名古屋市獣医師会 創立50周年を祝して

公益社団法人 日本獣医師会 会長 藏 内 勇 夫



公益社団法人名古屋市獣医師会が創立50周年を迎えられたことに、日本獣医師会を代表して心からお祝い申し上げます。半世紀にわたる貴会のご発展、誠におめでとうございます。

貴会は、政令指定都市である名古屋市を区域とする公益社団法人で、小動物診療獣医師で構成されている都市型の獣医師会として、昭和40年に設立されました。当時、我が国は高度経済成長期にあり、国民は物質面及び文化面での豊かさを求めていましたが、その後50年を経過した現在、精神面での満足を求めるようになり、「安心」と「安全」という言葉が社会のキーワードとなるとともに、家庭で飼育する犬・猫等の動物たちは「家族の一員」という言葉に代表されるように、より身近な存在となっています。

このような状況の中で、獣医師は家庭動物に対する高度で最新の獣医療の提供のほか、食の安全安心の確保、人と動物の共通感染症の予防、動物の愛護と管理の整備・充実、野生動物対策等多様な社会の要請に応えながら国民生活の向上に貢献し、大きく期待される存在になってきました。

名古屋市は三大都市圏の一つである中京圏の中核都市であり、中京圏を擁する中部地方における政治・経済・文化の中心として発展を遂げてきました。全国の地方獣医師会が小動物診療、産業動物診療、畜産公衆衛生等の幅広い獣医師の就業分野をカバーして活動する中で、貴会は都市型の獣医師会として会員獣医師が従事する小動物診療分野に特化し、より直接的に市民への社会貢献を果たすべく、積極的に各種事業に取り組んでこられたことに敬意を表します。

特に、昭和62年、貴会は全国に先駆けて小動物診療相談のためのテレフォンドクター制度を開始され、また、平成16年には年中無休で診療活動を実施する夜間動物緊急診療所を開設されました。常に一般家庭で飼育される動物に寄り添い、飼育者のニーズを意識した貴会の事業が獣医師会活動の魁となり、手本となって全国の地方獣医師会をリードしてこられたことを改めて高く評価するとともに、心から感謝申し上げます。

貴会がこの意義ある創立50周年を節目とし、今後とも公益社団法人として、一層地域の要請に応え、大きく発展されることを願うものであります。

最後になりましたが、貴会関係者及び構成獣医師の方々が、ご健勝でますますご活躍されることを祈念してお祝いの言葉といたします。

# 名古屋市獣医師会 創立50周年記念誌の発刊に寄せて



愛知県知事 大村 秀章

公益社団法人名古屋市獣医師会が創立50周年を迎えられ記念誌を発刊されるにあたり、心からお祝い申し上げます。

貴会は、昭和40年に社団法人として設立されて以来、公衆衛生の向上、家畜及び小動物の診療、さらには動物愛護思想の普及等の活動に御尽力されてこられました。

平成23年度には、「公益社団法人 名古屋市獣医師会」に移行され、ますます積極的に公益事業に取り組んでおられることに対しまして、深く敬意を表するところでございます。

さて、近年、家庭で飼育されるペットの増加や種類の多様化、獣医療の高度化、さらには人獣共通感染症や動物愛護への関心の高まりなど、獣医師を取り巻く環境の変化は大きく、貴会におかれましても、様々な対応が求められる状況にあることと存じます。

このような中で、貴会の取組みが、動物の健康の確保や福祉の増進、人と動物のより良い関係の構築につながりますことを大いに期待しているところでございます。

このたび、貴会の50年の歩みを集大成した名古屋市獣医師会創立50周年記念誌が発刊されますことは、まことに意義深く時宜を得たものと存じます。

県といたしましても、畜産振興、公衆衛生、動物愛護に関する諸施策を進めてまいりますので、一層の御理解と御協力を賜りますようお願いいたします。

最後に、名古屋市獣医師会並びに会員の皆様におかれましては、今後ともその使命を十分に遂行していただきますとともに、なお一層御活躍されますよう心より祈念いたしまして、お祝いの言葉いたします。

# 祝 辞

---

名古屋市長 河村 たかし



公益社団法人名古屋市獣医師会が創立 50 周年を迎えられますことを、心からお祝い申し上げます。貴会におかれましては、狂犬病予防事業の柱である狂犬病予防注射をはじめ、名古屋市との共同事業である「動物フェスティバル」の開催、災害発生時の動物救護活動を円滑に進めることを目的とした「災害時動物救護に関する協定」の締結など、日頃から名古屋市の公衆衛生及び動物愛護管理行政に対し多大なるご支援を賜り、深く敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

さて、私も齢 66 歳となり、より良い社会を引き継いでいくために、将来を担う若者や子ども達に対する施策が極めて重要であると考えています。平成 26 年 4 月からは、子ども達の悲鳴に耳を傾け、そこに手を差し伸べることができるよう、カウンセラーなど常勤の専門職が、児童生徒と関わりながら教員とともに潜在化する問題の未然防止や個別支援をおこなう日本で初めての取り組み「なごや子ども応援委員会」を始めました。まちが今後も輝き続けるためには、人が健やかに、立派に育ち、活躍できる環境を備えていることが不可欠です。「日本一ひとが育つまち」を目指して施策を推進してまいりたいと考えています。

また、名古屋市では、ペットの正しい飼い方の普及啓発、地域における特定の飼主のいない猫の適切な管理の支援など、「人と動物が快適に共生するまち、なごや」を実現するための取り組みを行っています。こうしたまちづくりは、行政だけで成し遂げられるものではなく、市民の皆様、ボランティアの皆様、獣医師の皆様と協働でなしえるものだと考えています。今後とも一層のご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。貴会のますますのご発展をご期待申し上げますとともに、会員の皆様のご健勝とご活躍を心から祈念いたします。

# 公益社団法人 名古屋市獣医師会 50 周年



名古屋市獣医師協同組合 理事長 浅沼謙治

私が名古屋市獣医師会に入会したのは、昭和 53 年ですのもう 37 年も前のことです。

当時、朝一番の仕事はシンメルに火をつけてガラスの注射器と金属製の注射針の煮沸消毒をすることでした。その後数年でディスポーザブルシリンジの普及によりガラスの注射器と金属の注射針は姿を消しました。この頃は春、秋 2 回の狂犬病予防接種が必要で、集合注射も年 2 回でした。当時の狂犬病予防ワクチンは犬の大小により接種量も違い 1 頭 1 針なんて言葉もなく大動物用の連続注射器を使用している先生もあり、また土曜日は各保健所が注射会場で 800 頭以上注射を実施したこともあり、今の若い先生には想像もできない世界でした。名古屋市内にも養豚場、養鶏場があり獣医師会にも家畜防疫部会があり豚注に駆り出されたのも楽しい思い出です。

名古屋市獣医師会の事務所は瑞穂区のうどん屋の 2 階の貸事務所で今とは比べ物にならないほど質素なものでした。昭和 56 年頃名古屋市の土地を借り受け自前の会館建設の話が持ち上がり賛否様々な意見が飛び交い夜中まで総会が続く事もありました。現在の長老の先生方もまだ若く精力的に活動され晴れて会館建設の運びとなり、その運営の一端を担うべく名古屋市獣医師協同組合が設立され、全国初の動物看護師の養成校として名古屋動物看護学院を開校、今の AHT が勤務する動物病院が当たり前となる大きな出来事でした。その後狂犬病予防接種が年 1 回となり会館建設のための借入金の返済は集合注射料金より 1 頭につき 200 円を充てていたため返済計画の見直しということもありましたが右肩上がりの時代でもあり小動物臨床を中心とした獣医業界の今の発展につながる幕あきの時代でした。その後公益社団法人名古屋市獣医師会となり名古屋市からの土地の買い取り等の出来事は記憶に新しい大きな変化でした。

とりとめのない昔話になってしまいましたが、今後も多くの優秀な若手の先生方による公益社団法人の更なる発展を祈念しております。



# 目次

---



## 目 次

ご挨拶	公益社団法人 名古屋市獣医師会 会長 荻曾 敏之…………… 1
祝 辞	
公益社団法人名古屋市獣医師会創立 50 周年を祝して	公益社団法人 日本獣医師会 会長 藏内 勇夫…………… 5
名古屋市獣医師会創立 50 周年記念誌の発刊に寄せて	愛知県知事 大村 秀章…………… 6
祝 辞	名古屋市長 河村たかし…………… 7
公益社団法人名古屋市獣医師会 50 周年	名古屋市獣医師協同組合 理事長 浅沼 謙治…………… 8
歴代会長挨拶	
一億総中流より、富裕と貧困の、二極化の時代を迎えて	社団法人 名古屋市獣医師会 五代・七代会長 鷲塚 貞長……………15
次への飛躍を望んで	社団法人 名古屋市獣医師会 六代会長 渡辺 泰夫……………16
50 周年を迎えて	社団法人 名古屋市獣医師会 八代会長 駒崎 精彌……………17
歴代役員一覧 ……………	21
写真で綴る 50 年	
歴代会長写真 ……………	29
周年記念式典・祝賀会 ……………	30
名古屋市獣医師会館設立記念式典 ……………	32
学会（中部大会） ……………	33
動物フェスティバル ……………	35
長寿功労動物表彰 ……………	39
懇 親 会 ……………	41
50 年のあゆみ	
名古屋市獣医師会のあゆみ ……………	45
総 会 ……………	46
狂犬病集合注射（集計） ……………	48
学術セミナー ……………	49
あ ゆ み ……………	60
避妊去勢手術助成事業 ……………	64
動物フェスティバル ……………	66
A I C ……………	67





人獣共通感染症調査事業	70	
テレフンドクター	71	
傷病野生鳥獣保護事業	72	
長寿功労動物表彰	73	
夜間動物緊急診療所の運営について	74	
学校飼育動物	78	
マイクロチップ推進事業	82	
なごやかキャット推進事業	82	
50年によせて		
偉業	公益社団法人 名古屋市獣医師会 監事 三浦 隆	83
衛星写真	社団法人 名古屋市獣医師会 元理事 高取 勝良	85
表彰者一覧		86
公益社団法人 名古屋市獣医師会 定款		89
公益社団法人 名古屋市獣医師会組織・機構		98
正会員名簿		99
賛助会員名簿		103
物故会員		104
編集後記		105



# 歴代会長挨拶

---

# 一億総中流より、富裕と貧困の、 二極化の時代を迎えて

社団法人 名古屋市獣医師会 五代・七代会長 鷺塚 貞 長



ダンテが神曲を著した、13世紀の世界経済は、イタリアのフィレンツェが中心で、銀行制度が概ね完成していました。ダンテの父は、しがない金貸し業の没落貴族で、面相も芳しくなかったダンテは、思いを寄せた、富裕層の娘、ベアトリーチェには鼻も引っかけられなかった。

先進国揃い踏みでのゼロ金利が続いているが、それは15世紀頃のルネッサンスの頃に体系づけられ、500年間続いた資本主義が終焉に近いことの表れで、資本主義に不可欠な、物理的フロンティアが、西アフリカの一部を残し、ほとんど存在しなくなり、エボラの患者が、路上に放置されるような、人材も気力も乏しい国々では、物理的フロンティアとしてはほとんど機能しないからです。

新たなるフロンティアとして、それを電子・金融空間に求めたが、このリスク極まりない逃げ場は、リーマンショックが示す如く、3年毎のバブルと崩壊の繰り返しを招き、中産階級は急速に少し、一つまみの富裕層が富を独占し、大半が貧困層となる二極化現象を招いてしまった。

独り勝ちといわれる米国でも、10人に1人が貧困層で、かつては、1億総中産階級と豪語した我が国も、6人に1人が年収122万円以下の貧困層という報告があります。

このような世相を反映し、伴侶動物の数は年々急減しており、その主な原因は、中産階級の崩壊と、急増する高齢者人口にあると思われまます。

富の65%以上が、65歳以上に偏在し、さらには、愛の深い高齢者ほど、伴侶動物の天寿まで、自分の健康を保つ自信がないからと、動物を飼いたくても我慢します。

また、乱世に生き残る富裕層は、ごく一部の、卓越した能力を有する優れ者と、大半は、金の為なら手段を選ばない、サンゴ人間（サンゴは生き物だが、胃袋と生殖器以外はない）であるので、情愛に乏しく、伴侶動物との共生には、不向きな輩であるでしょう。

かくのごとく、誠に由々しき開業環境にもかかわらず、新規開業は、何の節操もなく右上がり急増、ペット業者は、臨床畑に泥靴で踏み込み、獣医師の中には、自然科学を商売と履き違える輩など、問題は山積であります。

しかしながら、獣医師会の地方会も中央も、これらの深刻な諸問題に関する、状況分析、考察、対処のオペレーションなどが、視力・聴力共に優れているはずの私には、どこを探しても見当たらないのです。

内憂外患、まさに足元に火がついている斯界にあって、市獣からは、会長在任中の苦労話などを、1Pほどで執筆頂きたいとの依頼が有りました。

赤字400万円の、崩壊寸前の名古屋市獣医師会を建て直し、会館を作り、数々の事業を立ち上げ、獣医師会による中部地区を視野に入れた、近い将来の高度獣医療センター構築を目途に、7000万円余の備蓄金まで残すなど、身命を賭し、私はリーダーとして蛮勇を振るってきた。

今日の、斯界イスラム国化現象の中で、僅かな紙面で苦労話を能天気執筆するには、私の精神構造は、あまりにも繊細で鋭利である。

## 次への飛躍を望んで

社団法人 名古屋市獣医師会 六代会長 渡辺泰夫



公益社団法人名古屋市獣医師会が社団法人として認可されてから50年という節目を迎えられた事に関係の皆様とご一緒にお祝いしたいと存じます。

初めに、私の入会前後の状況を引き合いに述べさせて頂き、設立認可された頃の当時の業界の状況を想像していただきたい。

昭和40年(1965年=名古屋市獣医師会が認可された年)、私は臨床研修を始めたばかりの頃で、開業を目指して診療と手術の習得に励み多忙な日々を過ごしていた。遡って前年の昭和39年に岐阜大を卒業した。直ぐに、午前と午後前半は産業動物(主として牛)の臨床、夕刻から夜間は小動物の臨床という生活を愛知・岐阜にて3年間。その後、2年間は大阪に移り小動物臨床に集中研修。その頃、何方かの推薦であろう。名古屋出身の縁からか、社団法人名古屋市獣医師会が設立されたから入会しないかと誘いを受けた。

昭和44年春。5年間の臨床研修を終え、希望と大きな不安を抱えながら郷里へ戻った。前年の晩秋、開業予定の希望地と加入手続きの相談に名古屋市獣医師会の事務所を訪れた。瑞穂区のビルの2階。狭い階段を上り、右手のドアを開けた。やや陰気な暗い事務所の中に一人の男性が居た。坂本事務長であった。出身地の中村公園前・大鳥居(通称:赤鳥居)付近は避けるように、とのお達しだった。現在地の亀島での開業に至る所以である。

次いで、入会後の5年間は臨床三昧。希望に燃え、恩師岸上正義博士と当時の日獣大・黒川教授紹介の若い研修医と家内との3人で、日夜猛烈に働いた。昭和49年夏、久しぶりの休息を取るべく家族旅行で八丈島に滞在中のこと。この年の獣医師会の総会は人事で揉めに揉め、何回もの臨時総会が開催された。旅行予定日に総会日程が重なってきた。飛行機・宿等の予約キャンセルが難しく、やむを得ず委任状を提出し出かけていた。そこへ、堀場新会長から電話があり、役員を引き受けるようにとの厳命。理事になった経緯である。借りもあり断り切れなかった。

「あなたの思いを役員になって成し遂げなさい」が殺し文句だった。

名古屋市獣医師会に入会し46年になる、そのうちの、26年間(政変劇で約1年間のブランクがあるが)役員を続けた。与えられた仕事の中で精一杯頑張り、自分の「思い」を理事会で披露しながら理想を目指した。中々思い通りにならず、イラつき、諦めも些かあったが、粘り強く、思いを少しずつ実現していった。(役員時代の業績の多くは他項に譲るが)自前の会館、実習室、学術図書の実、学術団体としての体裁、一番の思い出は副会長時代から論議の的になっていた資産管理の問題を会長になってから明確にできたことである。

さて、50年後、即ち100周年には、名古屋市獣医師会はどうなっているのでしょうか。是非に見てみたいものだ。有名な方々の言を借りれば、真偽の論争はあるが進化論のダーウィンが言ったと小泉首相が引用した「この世に生き残る生き物は、最も力の強いものか。そうではない。最も頭のいいものか。そうでもない。それは、変化に対応できる生き物だ」また、ドイツの政治家のワイツゼッカー氏は「国家が外敵によって滅びることは少ない。滅びるのは、それは倫理や道徳の腐敗によって内部から滅びる」と述べている。

公益社団法人名古屋市獣医師会が未来永劫に栄える事を願って稿を終える。

# 50周年を迎えて

社団法人 名古屋市獣医師会 八代会長 駒崎 精 彌



我が獣医師会は昭和26年（1951）、愛知県獣医師会名古屋支部として発足以来、翌年には名古屋市獣医師会と改称、昭和40年（1965）6月18日、旧民法による公益法人社団法人格を得、その後、100年民法大改正による移行措置によって平成23年より公益社団法人格を与えられ獣医師専門分野の方程式Xに名古屋市をはじめ市議顧問ならびに関係諸氏のお力添えをいただき、ここに50周年の節目を迎えたこと、心から感謝申し上げます。

私が入会したのは、大卒後、滋賀県職を経て名古屋市職を退職してからですから昭和53年の秋だったと思います。

その当時、名古屋市獣医師会は全国でも名立たる活動組織とみうけられ、率いる執行部会長のカリスマ性実行力は他に類をみないものでありました。

昭和27年より名古屋市から狂犬病予防集合注射事業を任せられ野外会場で春秋の2回注射実施を始めに犬猫の避妊去勢手術の名古屋市補助金助成制度、長寿犬の表彰、家畜防疫部会設立、緊急往診時の通行禁止・駐車禁止除外車両の指定、昭和51年には動物フェスティバル第一回開催、動物インフォメーション開設、そして昭和58年3月、中区大須4丁目に当時の名古屋市衛生局の駐車場の土地を借り受け名古屋市獣医師会館の竣工と同時に名古屋市獣医師協同組合の設立を成し遂げられております。

みなぎるエネルギーを受け継いだ後任者らは団体の信用性の証しである組織経理の透明化、学術面では国際セミナーの開催、ペットは家族の一員フレーズの普及、猫の長寿表彰式の開催、人獣共通伝染病・狂犬病の防疫強化と確立、都・政令指定都市協議会の立ちあげと主導、員外理事制度の導入と同時に、公益社団法人格の取得、現会館土地を名古屋市から譲り受け、さらには、公益法人が運営する全国初の動物夜間緊急診療所の開設と、まさに真の公益法人活動にたえず邁進する様は誇らしいものがあります。

寄稿の依頼は在任中の苦勞・回顧の内容ですから少し書きますが在任中になさねばならない事を「獣医療が公益性であること」と「公益社団法人格取得」とに絞り務めました。公益社団法人格移行のため公益法人協会主催の勉強会（30～40歳代の人たちばかりでした）に一週間に一回、今池の講習会場に通学したことはとてもつらかったです。

今日、組織の継続性は公益法人理事会によって受け継がれており開業獣医師が集う社会貢献・公益目的事業の全うが「幸せな結末」をきっとみつけることであり続け、さらに、名古屋市行政との密な連携と助成によって、市民みなさまのご期待に沿うものでありますよう、ますますの奮闘を心から望み、50周年のお祝いの詞とさせていただきます。

# 歴代役員一覧

---



## 歴代役員一覧

任 期	役職名	氏 名
自 昭和40年 6 月18日 至 昭和43年 3 月31日	会 長	都島 勇
	副会長	加藤 喜尚 青山 喜由
	理 事	吉田 博臣 堀場 利幹 原 崇 滝山 岩親 小笠原成郎
	監 事	蟹江 剛 三浦 久
自 昭和43年 4 月 1 日 至 昭和45年 3 月31日	会 長	都島 勇
	副会長	加藤 喜尚 吉田 博臣
	理 事	青山 喜由 堀場 利幹 原 崇 杉浦 明 鷺塚 貞長
	監 事	滝山 岩親 長谷川満一
自 昭和45年 4 月 1 日 至 昭和47年 3 月31日	会 長	加藤 喜尚
	副会長	堀場 利幹 滝山 岩親
	理 事	原 崇 杉浦 明 水谷 清 鷺塚 貞長 石川裕一郎
	監 事	安形 公男 松原 良光
自 昭和47年 4 月 1 日 至 昭和49年 3 月31日	会 長	加藤 喜尚
	副会長	林 信男 堀場 利幹
		堀場 利幹 原 崇
	理 事	原 崇 杉浦 明 鷺塚 貞長 石川裕一郎 吉田 暢
		杉浦 明 鷺塚 貞長 石川裕一郎 吉田 暢 神原 八仁
	監 事	安形 公男 長谷川満一
長谷川満一 安形 公男		
自 昭和49年 4 月 1 日 至 昭和51年 3 月31日	会 長	堀場 利幹
	副会長	杉浦 明 鷺塚 貞長
	理 事	安形 公男 神原 八仁 辻村 皓 渡辺 泰夫 石川裕一郎
	監 事	金本 勇 滝山 岩親

任 期	役職名	氏 名
自 昭和51年 4 月 1 日 至 昭和53年 3 月31日	会 長	堀場 利幹
	副会長	鷺塚 貞長 安形 公男
	理 事	渡辺 泰夫 辻村 皓 坂本 達明 神原 八仁 夏目 清一
	監 事	金本 勇 成田 識行
自 昭和53年 4 月 1 日 至 昭和55年 3 月31日	会 長	堀場 利幹
	副会長	鷺塚 貞長 安形 公男
	理 事	渡辺 泰夫 辻村 皓 夏目 清一 坂本 達明 司馬 健吉
	監 事	金本 勇 成田 識行
自 昭和55年 4 月 1 日 至 昭和57年 3 月31日	会 長	堀場 利幹
	副会長	鷺塚 貞長 安形 公男
	理 事	渡辺 泰夫 辻村 皓 夏目 清一 坂本 達明 久世 正士
	監 事	杉浦 明 金本 勇
自 昭和57年 4 月 1 日 至 昭和59年 3 月31日	会 長	堀場 利幹
	副会長	鷺塚 貞長 安形 公男
	理 事	中村 昌弘 久世 正士 安藤 重忠 渡辺 泰夫 兼松 敦
	監 事	駒崎 精彌 松原 良光
自 昭和59年 4 月 1 日 至 昭和60年11月 1 日	会 長	堀場 利幹
	副会長	鷺塚 貞長 安形 公男
	理 事	渡辺 泰夫 夏目 清一 兼松 敦 司馬 健吉 松波 恒彦
	監 事	滝山 昭 久世 正士

任 期	役職名	氏 名
自 昭和60年11月2日 至 昭和61年3月31日	会 長	加藤 喜尚
	副会長	成田 識行 夏目 清一
	理 事	渡辺 仙一 小島 治夫 司馬 健吉 兼松 敦 加藤 謙次
	監 事	滝山 昭 杉浦 明
自 昭和61年4月1日 至 昭和62年7月30日	会 長	加藤 喜尚
	副会長	夏目 清一 久世 正士
	理 事	兼松 敦 加藤 謙次 安藤 重忠 駒崎 精彌 長馬一志
	監 事	滝山 昭 渡辺 仙一
自 昭和62年7月31日 至 平成元年3月31日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	渡辺 泰夫 司馬 健吉
	理 事	久世 正士 駒崎 精彌 中村 昌弘 松波 恒彦 藤井 信行 夏目 清一(63.3.31迄)
	監 事	杉浦 明 小島 治夫
自 平成元年4月1日 至 平成3年3月31日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	渡辺 泰夫 司馬 健吉
	理 事	久世 正士 兼松 敦 松波 恒彦 塚田 勝彦 三浦 隆
	監 事	神原 八仁 佐藤 寛
自 平成3年4月1日 至 平成5年3月31日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	渡辺 泰夫 司馬 健吉
	理 事	塚田 勝彦 駒崎 精彌 滝山 昭 尾島 雅之 渡辺 仙一
	監 事	神原 八仁 佐藤 寛

任 期	役職名	氏 名
自 平成 5 年 4 月 1 日 至 平成 7 年 3 月 31 日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	渡辺 泰夫 司馬 健吉
	理 事	駒崎 精彌 松波 恒彦 塚田 勝彦 渡辺 仙一 尾島 雅之
	監 事	兼松 敦 中村 昌弘
自 平成 7 年 4 月 1 日 至 平成 8 年 3 月 31 日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	渡辺 泰夫 駒崎 精彌
	理 事	松波 恒彦 渡辺 仙一 尾島 雅之 太田 昭彦 荻曾 敏之
	監 事	杉浦 明 兼松 敦
自 平成 8 年 4 月 1 日 至 平成 11 年 3 月 31 日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	渡辺 泰夫 駒崎 精彌 松波 恒彦
	理 事	渡辺 仙一 塚田 勝彦 太田 昭彦 荻曾 敏之 長屋 好昭
	監 事	杉浦 明 兼松 敦
自 平成 11 年 4 月 1 日 至 平成 11 年 5 月 22 日	会 長	渡辺 泰夫
	副会長	松波 恒彦
	理 事	尾島 雅之 荻曾 敏之 長屋 好昭 高取 勝良 岩本 篤司 三浦 春水
	監 事	
自 平成 11 年 5 月 23 日 至 平成 13 年 3 月 31 日	会 長	渡辺 泰夫
	副会長	駒崎 精彌 松波 恒彦(12.9.30迄) 尾島雅之(12.9.30迄)
	理 事	荻曾 敏之 長屋 好昭 高取 勝良 岩本 篤司 三浦 春水 石川 勝行
	監 事	司馬 健吉 三浦 隆

任 期	役職名	氏 名
自 平成13年 4 月 1 日 至 平成15年 3 月31日	会 長	鷺塚 貞長
	副会長	滝山 昭 渡辺 仙一 塚田 勝彦
	理 事	兼松 敦 長屋 好昭 荻曾 敏之 加藤 巧(13.5.17～) 長谷川光洋(13.5.17～)
	監 事	司馬 健吉 三浦 隆
自 平成15年 4 月 1 日 至 平成17年 3 月31日	会 長	駒崎 精彌
	副会長	荻曾 敏之 岩本 篤司 三浦 春水
	理 事 (15.5.12～)	黒邊利美夫 有馬 司 鈴木 貞 南谷 武男
	監 事	久世 正士 林 友一郎
自 平成17年 4 月 1 日 至 平成19年 3 月31日	会 長	駒崎 精彌
	副会長	荻曾 敏之 岩本 篤司 三浦 春水
	理 事	塩田 孝児(17.5.22～) 黒邊利美夫 有馬 司 鈴木 貞 内田 汎美 南谷 武男
	監 事	久世 正士 三浦 隆
自 平成19年 4 月 1 日 至 平成21年 3 月31日	会 長	駒崎 精彌
	副会長	荻曾 敏之 三浦 春水 塩田 孝児
	理 事	小川 幸哉 黒邊利美夫 有馬 司 鈴木 貞 内田 汎美 南谷 武男
	監 事	久世 正士 三浦 隆
自 平成21年 4 月 1 日 至 平成23年 3 月31日	会 長	駒崎 精彌
	副会長	荻曾 敏之 三浦 春水 塩田 孝児(22.7.7迄)
	理 事	小川 幸哉 黒邊利美夫 有馬 司 鈴木 貞 内田 汎美 志村 憲孝(22.5.23～)
	監 事	鈴木 直弘 三浦 隆

任 期	役職名	氏 名
自 平成23年 4 月 1 日 至 平成25年 5 月26日	会 長	荻曾 敏之
	副会長	三浦 春水 小川 幸哉
	理 事	大藪 一雄 酒井 直治 柴田恵美子 鈴木直弘 成田 隆信 湯木 正史 鷲塚 章
	監 事	小島健太郎 三浦 隆
自 平成25年 5 月26日 至 平成27年 5 月31日	会 長	荻曾 敏之
	副会長	三浦 春水 小川 幸哉
	理 事	大藪 一雄 小島健太郎 酒井 直治 柴田恵美子 土井 収 保田 恭志 鷲塚 章
	監 事	成田 隆信 三浦 隆

# 写真で綴る50年

---

歴代会長写真  
周年記念式典・祝賀会  
名古屋市獣医師会館設立記念式典  
学会（中部大会）  
動物フェスティバル  
長寿功労動物表彰  
懇親会

## 歴代会長写真



初代 都 島 勇



二代・四代 加 藤 喜 尚



三代 堀 場 利 幹



五代・七代 鷺 塚 貞 長



六代 渡 辺 泰 夫



八代 駒 崎 精 彌



九代 萩 曾 敏 之



# 周年記念式典・祝賀会



**25周年記念式典・祝賀会**  
平成2年10月28日 ヒルトンホテル名古屋



**30周年記念式典・祝賀会**  
平成7年10月14日 名古屋国際会議場





**35周年記念式典・祝賀会**  
平成13年3月18日 ホテルプラセオ名古屋



**40周年記念式典・祝賀会**  
平成18年2月12日 名古屋東急ホテル



# 名古屋市獣医師会館設立記念式典

昭和 58 年 4 月 17 日



## 竣工祝賀パーティー

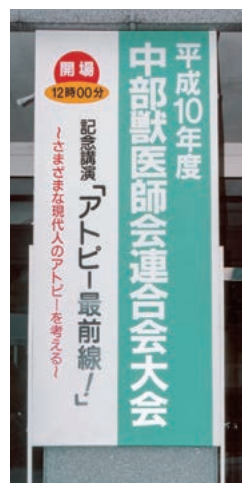


# 学会 (中部大会)

昭和 50 年 8 月 31 日～9 月 1 日 愛知県勤労会館



平成 10 年 8 月 20 日～21 日 名古屋国際会議場



平成 19 年 9 月 1 日～2 日 名古屋国際会議場



日本獣医師会学会 年次総会  
平成2年2月9日～11日 名古屋市公会堂 愛知県労働会館



# 動物フェスティバル



第1回 昭和51年9月26日



第3回 昭和53年9月23日～24日



第8回 昭和58年9月25日



第12回 昭和62年9月21日



大雨洪水警報で  
中止に

第13回 昭和63年9月25日



第17回 平成4年9月18日



第25回 平成12年9月24日





第30回 平成17年9月18日



第35回 平成22年9月12日

# 長寿功勞動物表彰



第3回 平成5年9月25日



第5回 平成7年9月23日



第7回 平成9年9月20日



第8回 平成10年9月19日





第10回 平成12年9月23日



第12回 平成14年9月21日



第15回 平成17年9月17日



第16回 平成18年9月16日



# 懇親会

昭和 55 年 11 月 30 日 京都バスツアー



昭和 62 年 10 月 25 日 吉良温泉  
獣医師会・組合合同福祉バス旅行



平成 3 年 11 月 10 日  
秋の飯田路バス旅行



平成 4 年 11 月 3 日 北陸バスツアー



平成 13 年 5 月 27 日 浜岡原子力発電所見学



平成 22 年 7 月 11 日 日本モンキーセンター



平成 23 年 10 月 9 日 矢場とん栄セントライズ店



平成 24 年 10 月 14 日 春花秋燈栄店



平成 25 年 10 月 13 日 中華料理シルクロード



# 50年のあゆみ

---

名古屋市獣医師会のあゆみ

総 会

狂犬病集合注射(集計)

学術セミナー

あゆみ

避妊去勢手術助成事業

動物フェスティバル

A I C

人獣共通感染症調査事業

テレフォンドクター

傷病野生鳥獣保護事業

長寿功労働物表彰

夜間動物緊急診療所の運営について

学校飼育動物

マイクロチップ推進事業

なごやかキャット推進事業

# 名古屋市獣医師会のあゆみ

昭和25年 (1950年)	狂犬病予防法が成立施行
昭和26年 (1951年)	社団法人 愛知県獣医師会、名古屋支部として発足
昭和27年 (1952年)	名古屋市獣医師会と名称を定め 名古屋市より狂犬病予防事業を委嘱され、 予防接種を実施
昭和40年 (1965年)	社団法人 名古屋市獣医師会設立、認可  
昭和41年 (1966年)	長寿犬表彰式、健康相談等開催 会報の発刊（あゆみ創刊） 会章制定（NAGOYA VETERINARY）
昭和42年 (1967年)	日本獣医師会正会員として認証される 第140回日本臨床獣医学会（名古屋）
昭和43年 (1968年)	名古屋市瑞穂区瑞穂通4-39に事務所設置 名古屋市の補助を受けて犬の避妊手術助成 制度を開始（全国で初めて）
昭和47年 (1972年)	家畜防疫部会設立
昭和50年 (1975年)	犬の避妊手術助成制度を犬猫の避妊・去勢 手術助成制度に拡大して実施 第25回中部地区獣医師大会開催 交通安全協会発足
昭和51年 (1976年)	第1回動物フェスティバル開催 （翌年より名古屋市と共催）
昭和53年 (1978年)	日本臨床獣医学会（小動物） 小動物臨床シンポジウム開催
昭和55年 (1980年)	名古屋市の助成を受けて、人畜共通疾病の 調査を開始 AIC（動物インフォメーションセンター）開設 狂犬病予防法施行30周年、名古屋市獣医 師会15周年記念祝賀会開催

昭和57年 (1982年)	名古屋市獣医師会館着工（10/25） 市立幼稚園、養護施設等に動物愛護に関す る絵本寄贈（以後毎年）
昭和58年 (1983年)	名古屋市獣医師会館竣工（3/27） （名古屋市中区大須4-12-21） 名古屋市獣医師協同組合設立
昭和59年 (1984年)	日本小動物獣医師会84年次大会開催 名古屋動物看護学院開校
昭和62年 (1987年)	テレフォンドクター開設（10/1） （以後継続中）
昭和63年 (1988年)	中部獣医師会連合会大会及び三学会開催
平成元年 (1989年)	ペットネット（キャプテンシステム）スタート 世界デザイン博に参加 日本獣医師会学会年次総会開催
平成2年 (1990年)	第1回 国際セミナー開催 （以後2回開催、継続中） 愛知県の助成を受けて傷病野生鳥獣の保 護、治療を開始 狂犬病予防法施行40周年、名古屋市獣医 師会25周年記念祝賀会開催
平成4年 (1992年)	第1回 子犬の里親さがし大会（AIC）開 催（以後継続中）
平成5年 (1993年)	総理府共催、第19回動物フェスティバル開 催（9/26）
平成7年 (1995年)	社団法人 名古屋市獣医師会設立30周年 事業開催 第1回 政令指定都市及び東京都会長会議 の開催
平成9年 (1997年)	名古屋市獣医師会ホームページ開設
平成10年 (1998年)	中部獣医師会連合会大会及び三学会開催
平成12年 (2000年)	東海豪雨水害被災動物救護活動
平成16年 (2004年)	名古屋市獣医師会夜間動物緊急診療所を オープン
平成17年 (2005年)	名古屋市獣医師会40周年記念祝賀会開催
平成23年 (2011年)	公益社団法人 名古屋市獣医師会設立、認可
平成24年 (2012年)	マイクロチップ推進事業開始
平成25年 (2013年)	なごやかキャット推進事業開始

# 総 会

年 度	月 日	内 容	場 所
昭和40年度	9月23日	狂注通常総会	名古屋薬業健保会館
	11月10日	狂注通常総会	かすが荘
	3月18日	市獣通常総会	愛知県社会福祉会館
昭和41年度	5月8日	狂注通常総会	かすが荘
	9月15日	狂注通常総会	産業貿易館
	11月10日	狂注通常総会	かすが荘
	1月8日	狂注通常総会	産業貿易館
	3月26日	狂注通常総会	崇覚寺
昭和42年度	5月14日	市獣通常総会・狂注通常総会	かすが荘
	11月19日	狂注通常総会	県スポーツ会館
	3月24日	狂注通常総会	ABO会館
昭和43年度	5月14日	市獣通常総会・狂注通常総会	かすが荘
	9月21日	狂注通常総会	健保会館
	11月3日	狂注臨時総会	三越会館
	11月20日	狂注通常総会	下呂、水明館
	12月8日	市獣臨時総会	三越会館
	3月30日	狂注通常総会	三越会館
昭和44年度	5月25日	市獣通常総会・狂注通常総会	かすが荘 別館
	9月23日	狂注通常総会	健保会館
	11月23日	狂注通常総会	かすが荘 別館
昭和45年度	4月19日	市獣通常総会	三越会館
昭和46年度	6月20日	市獣通常総会	エーザイホール
昭和47年度	3月7日	市獣通常総会	桜華会館
昭和48年度	6月12日	市獣通常総会	名古屋薬業健保会館
昭和49年度	5月19日	市獣通常総会	かすが荘 別館
	7月15日	市獣臨時総会	桜華会館
昭和50年度	5月18日	市獣通常総会	かすが荘 別館
昭和51年度	5月23日	市獣通常総会	かすが荘 別館
昭和52年度	5月22日	市獣通常総会	かすが荘 別館
昭和53年度	5月21日	市獣通常総会	かすが荘 別館
昭和54年度	5月27日	市獣通常総会	中日パレス
昭和55年度	5月25日	市獣通常総会	かすが荘 別館
	6月17日	市獣臨時総会	桜華会館 富士桜
昭和56年度	5月17日	市獣通常総会	かすが荘 別館
	5月28日	市獣臨時総会	昭和社會教育センター
昭和57年度	5月23日	市獣通常総会	かすが荘 別館
昭和58年度	6月25日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
昭和59年度	5月20日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
昭和60年度	5月14日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
昭和61年度	5月18日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
	6月19日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	7月22日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
昭和62年度	5月19日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
	8月20日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
昭和63年度	5月29日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成元年度	5月28日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成2年度	5月23日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成3年度	5月26日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成4年度	5月31日	市獣通常総会・狂注通常総会	円庄



年 度	月 日	内 容	場 所
平成5年度	5月30日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成6年度	5月15日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成7年度	5月28日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成8年度	5月26日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成9年度	5月25日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成10年度	5月24日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	1月26日	政治連盟	名古屋市獣医師会館
	3月18日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成11年度	5月23日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	1月26日	政治連盟	名古屋市獣医師会館
	3月24日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
平成12年度	5月21日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	1月24日	政治連盟	名古屋市獣医師会館
	3月23日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成13年度	5月17日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月19日	市獣通常総会・狂注通常総会・政治連盟	名古屋市獣医師会館
平成14年度	5月26日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月18日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成15年度	5月12日	市獣臨時総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	5月25日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	7月25日	狂注臨時総会	名古屋市獣医師会館
	11月20日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	3月18日	市獣通常総会・狂注通常総会・政治連盟	名古屋市獣医師会館
平成16年度	5月23日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	1月28日	市獣臨時総会・政治連盟	名古屋市獣医師会館
	3月17日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成17年度	5月22日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月23日	市獣通常総会・狂注通常総会・政治連盟	名古屋市獣医師会館
平成18年度	5月26日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月23日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成19年度	5月27日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月19日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成20年度	5月25日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	1月28日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	3月19日	市獣通常総会・狂注通常総会・政治連盟	名古屋市獣医師会館
平成21年度	5月24日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	1月26日	市獣臨時総会・狂注臨時総会	名古屋市獣医師会館
	3月19日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成22年度	5月23日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
	8月26日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	9月30日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	10月28日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	11月25日	市獣通常総会・狂注臨時総会	名古屋市獣医師会館
	12月21日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	1月26日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	2月18日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	3月21日	市獣通常総会・狂注通常総会	名古屋市獣医師会館
平成23年度	5月22日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
	8月31日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	11月2日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
	3月21日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
平成24年度	5月20日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月22日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
平成25年度	5月26日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月19日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館
平成26年度	5月25日	市獣通常総会	名古屋市獣医師会館
	3月19日	市獣臨時総会	名古屋市獣医師会館

# 狂犬病集合注射（集計）

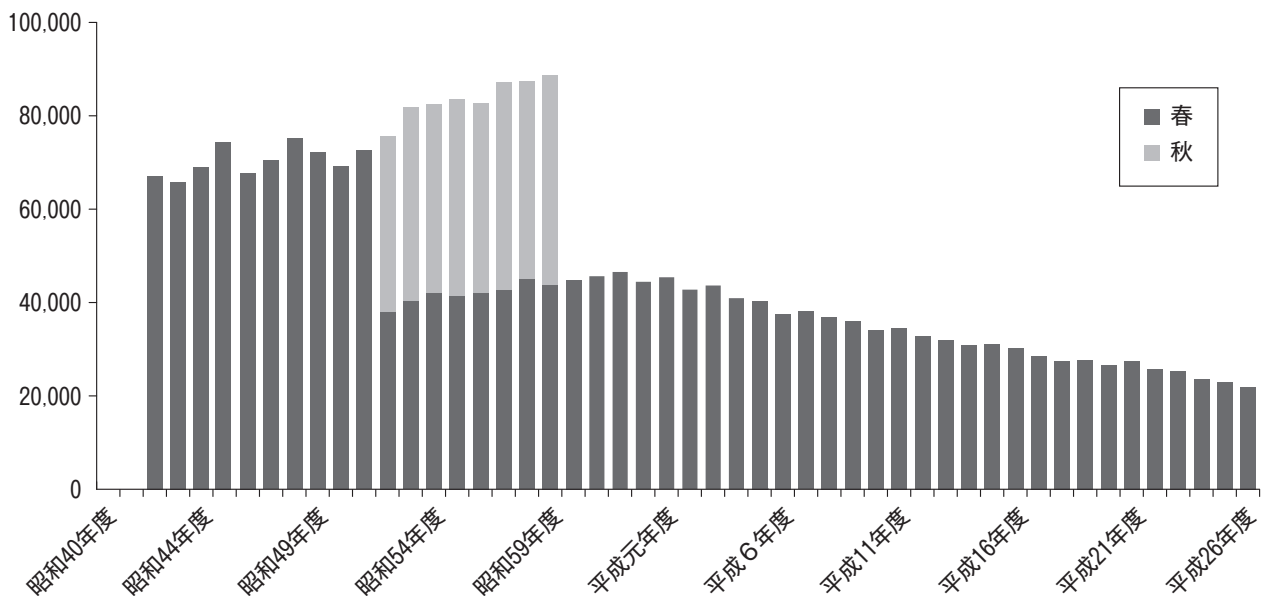
昭和40年社団法人名古屋市獣医師会を設立時から名古屋市より狂犬病予防事業を委嘱され、集合注射を毎年実施している。

年度	頭数	開催期間
昭和40年度	報告記載なし	4月・10月
昭和41年度	報告記載なし	4月・10月
昭和42年度	67,143	4月・10月
昭和43年度	65,849	4月・10月
昭和44年度	69,046	4月・10月
昭和45年度	74,403	4月・10月
昭和46年度	67,796	4月・10月
昭和47年度	70,390	4月・10月
昭和48年度	75,131	4月・10月
昭和49年度	72,098	4月・10月
昭和50年度	69,295	4月・10月
昭和51年度	72,613	4月・10月
昭和52年度	38,020	4月
	37,643	10月
昭和53年度	40,201	4月
	41,727	10月
昭和54年度	41,959	4月
	40,557	10月
昭和55年度	41,371	4月
	42,245	10月
昭和56年度	42,038	4月
	40,690	10月

年度	頭数	開催期間
昭和57年度	42,532	4月
	44,572	10月
昭和58年度	44,957	4月
	42,449	10月
昭和59年度	43,748	4月
	44,800	10月
昭和60年度	44,864	4月
昭和61年度	43,611	4月
	2,024	6月
昭和62年度	45,862	4月
	684	5月末～6月
昭和63年度	43,558	4月
	885	5月～6月
平成元年度	44,429	4月
	983	5月～6月
平成2年度	41,750	4月3日～28日
	1,011	5月末～6月
平成3年度	42,834	4月
	813	5月末～6月
平成4年度	40,231	4月
	702	5月末～6月
平成5年度	40,324	4月

年度	頭数	開催期間
平成5年度	222	5月末～6月
平成6年度	37,500	4月
平成7年度	38,080	4月
平成8年度	36,862	4月
平成9年度	36,016	4月
平成10年度	34,133	4月
平成11年度	34,569	4月
平成12年度	32,842	4月
平成13年度	31,930	4月
平成14年度	30,920	4月
平成15年度	30,992	4月
平成16年度	30,142	4月6日～23日
平成17年度	28,548	4月5日～26日
平成18年度	27,463	4月6日～27日
平成19年度	27,668	4月5日～26日
平成20年度	26,600	4月4日～25日
平成21年度	27,422	4月6日～27日
平成22年度	25,806	4月5日～26日
平成23年度	25,367	4月5日～26日
平成24年度	23,569	4月5日～26日
平成25年度	22,949	4月5日～26日
平成26年度	21,951	4月4日～25日

狂犬病集合注射実施頭数



※昭和42年～51年までは春と秋の合計数

# 学術セミナー

## ○昭和40年度

開催日 12月15日  
会場 武田薬品工業株式会社 ホール  
演題 「犬の肝臓機能検査について」  
講師 岐阜大学農学部  
教授 菅沼保治先生

## ○昭和41年度

開催日 7月31日  
会場 健保会館  
演題 「ジギタリス剤の使い方」  
講師 東京都 開業  
安達幸次郎先生  
演題 「フィラリヤ症の予防と治療について」  
「心膜性横隔膜ヘルニアを併発したフィラ  
リヤ症の外科的治療について」  
講師 日本獣医畜産大学  
教授 獣医学博士 黒川和雄先生

## ○昭和42年度

開催日 3月5日  
会場 中日文化センター大会議室  
演題 「コルチコステロイドの臨床応用」  
「犬の関節疾患」  
講師 東京大学 農学部  
教授 農学博士 幡谷正明先生

開催日 3月23日  
会場 中産連ビル  
演題 「犬フィラリヤの末期症状の病態と治療に  
ついて」  
講師 日本大学 農学部  
教授 桑原志都夫先生

## ○昭和43年度

開催日 6月12日  
会場 名古屋市食肉衛生検査所  
演題 「避妊手術について」  
「脳外科について」  
講師 日本獣医畜産大学  
教授 黒川和雄先生

## ○昭和44年度

開催日 9月7日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「外国の狂犬病について」  
「皮膚病について」  
講師 鳥取大学 迫先生  
北里研究所 岩淵先生

## ○昭和45年度

開催日 8月16日  
会場 名古屋市歯科医師会館  
演題 「輸血と輸液療法」  
講師 麻布獣医科大学  
高橋 貢先生

## ○昭和46年度

開催日 11月21日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「第16回家畜心電図研究会」

## ○昭和47年度

開催日 10月15日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「最近の犬学の外科学麻酔について」  
講師 日本大学農獣医学部  
佐藤 敬先生

## ○昭和48年度

開催日 3月24日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「動物保護法の説明」  
「ヨーロッパの獣医事情視察報告」  
講師 市衛生局 環境衛生課  
課長 渡会保人先生

## ○昭和49年度

開催日 11月23日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「犬の発情と排卵」  
講師 日本獣医畜産大学  
星 修三先生

開催日 2月23日  
会場 東山総合公園事務所  
日本臨床獣医学会（仙台）、中部大会（長野）学会  
で発表された先生方の講習会、及び防疫部、牛の繁殖  
障害についての講習会

#### ○昭和50年度

開催日 2月1日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「魚病伝達について」  
講師 野々垣正忠先生  
演題 「臨床病理学について」  
講師 名古屋保健衛生大学  
教授 久葉 昇先生

#### ○昭和51年度

開催日 10月31日  
会場 エーザイ株式会社名古屋支店ホール  
演題 「外科学を中心としたパネルディスカッション」  
講師 金本 勇先生、原 崇先生、  
渡辺泰夫先生

開催日 3月13日  
会場 愛知県産業貿易館  
演題 「猫の繁殖について」  
講師 日本大学  
村杉栄治先生

#### ○昭和52年度

開催日 10月30日  
会場 愛知県産業貿易館  
演題 「ニワトリの無声手術について」  
講師 滝山岩親先生、三浦 久先生  
演題 「内分泌疾患について」  
講師 鷺塚貞長先生  
演題 「血液化学検査について」  
講師 辻村浩之先生

開催日 3月21日  
会場 愛知県産業貿易館  
演題 「ネコのファロー四徴症の1例」  
講師 金本 勇先生  
演題 「犬の myopathy の2例」  
講師 渡辺泰夫先生  
演題 「小動物の臨床検査とその意義」  
講師 大阪府立大学  
大西堂文先生

#### ○昭和53年度

開催日 12月5日  
会場 愛知県産業貿易館  
演題 「日常の臨床上の問題点について  
～誤診をなくすために～」  
講師 DR・ラッセル・J・パターソン

開催日 3月4日  
会場 愛知県産業貿易館  
演題 「犬の僧帽弁閉鎖不全症に関する臨床的研究」  
講師 原 崇 獣医学博士 学位取称記念講演  
演題 「犬猫の麻酔 ～臨床経験から～」  
講師 山村穂積先生

#### ○昭和54年度

開催日 8月19日  
会場 桜華会館  
演題 「小動物皮膚疾患について」  
講師 串田寿昭先生

開催日 2月24日  
会場 桜華会館  
演題 「臨床心電図」  
講師 原 崇先生

#### ○昭和55年度

開催日 2月19日  
会場 株式会社三和化学研究所 会議室  
演題 「昭和56年4月1日施行『動物用医薬品の  
使用規制に関する省令』に基づく対応につ  
いて（第1回）」  
講師 鷺塚貞長先生

開催日 2月25日  
会場 株式会社三和化学研究所 会議室  
演題 「昭和56年4月1日施行『動物用医薬品の  
使用規制に関する省令』に基づく対応につ  
いて（第2回）」  
講師 名古屋市農業センター 鹿島英佑氏  
名古屋市農業センター 安藤正春氏

開催日 3月11日  
会場 株式会社三和化学研究所 会議室  
演題 「昭和56年4月1日施行『動物用医薬品の  
使用規制に関する省令』に基づく対応につ  
いて（第3回）」  
講師 愛知県尾張家畜保健衛生所 田中 明氏  
愛知県尾張家畜保健衛生所 日和 均氏  
愛知県尾張家畜保健衛生所 永井幸男氏

開催日 3月18日  
会場 株式会社三和化学研究所 会議室  
演題 「昭和56年4月1日施行『動物用医薬品の使用規制に関する省令』に基づく対応について(第4回)」  
講師 名古屋市農産課 稲熊興助氏  
名古屋市農産課 葛谷正敏氏  
名古屋市農産課 大槻基信氏

開催日 2月15日  
会場 桜華会館  
演題 「学会報告8題」  
講師 金本 勇先生、辻村浩之先生、堀場利幹先生、鷺塚貞長先生、渡辺泰夫先生  
演題 「前十字靭帯断裂症の新しい修復法」  
講師 渡辺泰夫先生

開催日 2月22日  
会場 名古屋市動物指導センター  
演題 「膝関節を中心とした外科手術について」  
講師 渡辺泰夫先生

#### ○昭和56年度

開催日 7月19日  
会場 株式会社三和化学研究所 会議室  
演題 「家畜のトキソプラズマ症について」  
講師 田辺製薬株式会社 大島 慧先生

開催日 12月17日、24日、  
昭和57年1月7日、14日  
会場 名古屋市獣医師会 小会議室  
演題 「X線読影法(骨格系について)」  
講師 説明:本会学術委員  
訳:宮林孝仁先生

#### ○昭和57年度

開催日 3月20日  
会場 桜華会館  
演題 「小鳥の診療について」  
講師 高橋達志郎先生

#### ○昭和58年度

開催日 7月9日  
会場 名古屋市獣医師会 大講堂  
演題 「X線読影の落とし穴」  
講師 Dr. Silverman

#### ○昭和59年度

開催日 7月8日  
会場 名古屋市獣医師会 大講堂  
演題 「小動物のX線診断学」  
講師 菅沼常德先生  
演題 「小動物眼科の基礎と臨床」  
講師 朝倉宗一郎先生

開催日 10月28日  
会場 名古屋市獣医師会 診療検査室  
演題 「血液像の見方」  
講師 辻村浩之先生

開催日 12月9日  
会場 名古屋市獣医師会 診療検査室  
演題 「小動物眼科診療のすすめ方」  
講師 朝倉宗一郎先生

#### ○昭和60年度

開催日 9月16日  
会場 名古屋市獣医師会 大講堂  
演題 「小動物皮膚科診療のすすめ方  
～臨床家としての診断と治療～」  
講師 麻布大学  
助教授 小方宗次先生

開催日 3月9日  
会場 名古屋市獣医師会 診療検査室  
演題 「外科手術における消毒・滅菌法」  
講師 金本 勇先生

#### ○昭和61年度

開催日 2月1日  
会場 名古屋市獣医師会 大講堂  
演題 「小動物血液型サービスと輸血について」  
講師 日本獣医畜産大学  
江島博康先生

開催日 3月8日  
会場 名古屋市獣医師会 大講堂  
演題 「電波で探る動物の行動調査について」  
講師 名古屋市立商業高校 生物学  
小笠原昭夫先生

### ○昭和62年度

開催日 8月28日  
会場 セレモニーホール新潟  
演題 「イヌの僧帽弁閉鎖不全症（MR）の矯正手術による1症例」  
講師 金本 勇先生  
演題 「幼犬に発生した犬伝染性喉頭気管炎(ICL)について」  
講師 秋山敬子先生  
演題 「イヌ、ネコにおける、問題行動に対する、MPA（medroxyprogesterone acetate）療法について」  
講師 鷺塚貞長先生

開催日 11月3日  
演題 「犬用全自動解析心電計」  
講師 日本獣医畜産大学  
教授 内野富弥先生

開催日 11月8日  
演題 「猫の疾病について」  
講師 酪農学園大学  
教授 其田三夫先生

開催日 12月13日  
演題 「フレキシブルアリゲーター鉗子による犬心臓糸状虫摘出手術」  
講師 岐阜大学  
教授 石原勝也先生

開催日 2月5日～7日  
会場 神戸ポートアイランド国際会議場  
演題 「研究発表（臨床部門）」  
講師 金本 勇先生、秋山敬子先生、鷺塚貞長先生  
演題 「研究発表（ポスターセッション）」  
講師 森島隆司先生  
演題 「研究発表（教育講演）」  
講師 原 崇先生

### ○昭和63年度

開催日 10月23日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「猫のウイルス性疾患」  
講師 日本獣医畜産大学  
石田卓夫先生

開催日 2月26日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床検査数値の読み方と診断」  
講師 麻布大学獣医学部内科学第2講座  
小林好作先生

### ○平成元年度

開催日 2月18日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床家にすぐ役立つ腎疾患に関する最新情報」  
講師 熊本県 開業  
宮本賢治先生

### ○平成2年度

開催日 5月5日～6日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「小鳥の臨床」  
講師 ワシントン州立大学  
小動物病院長 Dr. Erik Stauber D.V.M. Ph.D.  
演題 「犬猫の整形外科」  
講師 ワシントン州立大学  
准教授 Dr. James D.Lincoln D.V.M. M.S.

開催日 11月17日～18日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「エコー診断（主として胸部）に関する最新情報」  
講師 テキサス A & M 大学 講師  
小動物外科 専門医  
Therese W. Fossum D.V.M. M.S. Diplomate ACVS  
Matthew W. Miller D.V.M. Diplomate ACVIM  
演題 「麻酔および胸部外科の最近の知見」  
講師 ワシントン州立大学 講師  
獣医麻酔学 専門医 Stephen A. Greene  
D.V.M. Diplomate

### ○平成3年度

開催日 5月1日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「主として胸腹部外科における最新更新情報の数々」  
講師 Dr. Elizabeth Laing  
Dr. Marjore Losch

開催日 5月5日～6日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「単純 X 線でもこれだけ読める」  
講師 Dr. Ron Aande D.V.M. ph.D

開催日 9月15日～16日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「画像診断と、その外科的アプローチの最新情報」  
講師 Dr. David Baebee  
Dr. Lynn Wheayton

#### ○平成4年度

開催日 5月4日～5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「運動失調性疾患とボケなどを中心とした臨床神経病学に関する実用情報」  
講師 ワシントン州立大学  
教授 Dr. Moore

#### ○平成5年度

開催日 5月4日～5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「緊急及び危機疾患の最新情報」  
講師 カリフォルニア大学デイビス校  
主任 ジャネット・アルドリッヒ

開催日 11月13日～14日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬猫に臨床応用できる腎移植」  
講師 カリフォルニア大学デイビス校  
準教授 Dr. Clarer R.Gregory

開催日 11月16日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬の腎臓移植」  
講師 カリフォルニア大学デイビス校  
準教授 Dr. Clarer R.Gregory

開催日 9月19日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「骨盤骨折の整復および長骨骨折整復の失宜とその問題点」  
講師 麻布大学第一外科  
助教授 岩尾義人先生

#### ○平成6年度

開催日 4月30日～5月1日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「日常臨床の難問に答える臨床病理」  
講師 テキサス A & M 大学教授  
Michael D.Willard. D.V.M.

開催日 11月3日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「重症患者の死亡率をどこまで落とせるか」  
講師 カリフォルニア大学デイビス校  
主任 ジャネット・アルドリッヒ

開催日 3月2日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「家畜の損耗防止とフリーラジカルの臨床」  
講師 前浜松医科大学第三内科 助教授  
医療法人一穂会西山病院 院長  
小林 明先生

開催日 3月17日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「心疾患の最新のアプローチ」  
講師 カリフォルニア大学デイビス校  
Dip-ACVIM-Cardiology  
Paul David Pion D.V.M.

#### ○平成7年度

開催日 6月4日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「私の患者はなぜ死んだか」  
講師 テキサス A & M 大学教授  
Michael D.Willard. D.V.M.

開催日 10月14日～15日  
会場 名古屋国際会議場2号館  
演題 「社団法人設立30周年に伴う記念講演・臨床検討会」  
講師 記念講演  
鷲塚貞長先生、原 崇先生、  
金本 勇先生、渡辺泰夫先生  
AHT・スタッフセミナー  
兼松 敦先生、武田瑠璃子先生(岐阜県開業)

開催日 1月20日～21日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床医による整形外科」  
講師 横浜市 開業  
永岡勝好先生

### ○平成8年度

開催日 6月16日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「動物行動治療学」  
講師 東京大学大学院  
農学生命科学研究科  
獣医動物行動学研究室  
助教授 森 裕司先生

開催日 7月28日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「X線読影に有用となる各疾患の画像診断基準」  
講師 麻布大学獣医放射線学教室  
教授 菅沼常德先生

開催日 2月16日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「ビデオでみる臨床医の整形外科ならびに眼科」  
講師 織 順一先生

### ○平成9年度

開催日 10月5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「心不全の診断と治療」  
講師 岐阜大学農学部獣医学科家畜内科学  
教授 北川 均先生  
北里大学畜産学部獣医学科小動物臨床学  
教授 萩尾光美先生

開催日 11月30日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「小動物における術前疼痛マネージメントから麻酔後管理まで」  
講師 フロリダ大学獣医学部麻酔科学  
助教授 ジェフ・チン・コー先生

開催日 2月1日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床家のための疾患別輸液療法」  
講師 日本獣医畜産大学獣医放射線学教室  
教授 織間博光先生

### ○平成10年度

開催日 9月4日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「エキゾチックアニマルの臨床」  
講師 明治薬科大学薬学部  
深瀬 徹先生

開催日 12月20日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「家畜伝染病予防法の一部改正の概要」  
講師 愛知県農業水産部畜産課  
加藤篤幸氏  
演題 「腹部内臓疾患における外科的治療法の選択と限界」  
講師 大阪府立大学農学部  
教授 大橋文人先生

開催日 1月15日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床医の整形外科ならびに眼科 パート2」  
講師 大阪府 開業  
織 順一先生

### ○平成11年度

開催日 10月2日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「Q熱に関する最近の知見」  
講師 岐阜大学農学部家畜微生物学教室  
教授 平井克哉先生

開催日 12月26日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「画像診断を中心とした症例検討会」  
講師 麻布大学獣医学部獣医放射線学教室  
教授 菅沼常德先生

開催日 1月23日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬猫の行動学・行動治療学の実際」  
講師 酪農学園大学獣医学部獣医外科学第二教室  
助教授 内田佳子先生

### ○平成12年度

開催日 6月17日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬の悩みと皮膚への影響」  
講師 Purdue Univ.  
Dr. Andrew Luester

開催日 10月29日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「画像診断を中心とした症例検討会」  
講師 麻布大学獣医学部獣医放射線学教室  
教授 菅沼常德先生



開催日 3月18日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 創立35周年記念シンポジウム  
「改正動愛法を動物愛護に」  
講師 岐阜大学農学部  
教授 平井克哉先生  
名古屋市健康福祉局  
横井孝安先生  
渡辺泰夫会長

#### ○平成13年度

開催日 6月21日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「人畜共通感染症の最近の動向」  
講師 岐阜大学農学部公衆衛生学教室  
教授 源 宣之先生

開催日 8月4日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬と猫の新しい皮膚病」  
講師 Cornell Univ.  
Danny W. Scotto 先生

開催日 2月3日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「腫瘍に関連した症例検討および講義」  
講師 三重県 開業  
南 毅生先生

#### ○平成14年度

開催日 7月13日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬と猫の新しい皮膚病—内臓疾患と皮膚病変」  
講師 コーネル大学  
William H Miller, Jr. V.M.D

開催日 9月28日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「小動物眼科疾患の診断と治療・前眼部異常から診断する眼科疾患(基礎から最新情報)」  
講師 名古屋市 開業  
滝山 昭先生

#### ○平成15年度

開催日 7月13日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「赤血球凝集反応による犬用血液型判定試薬の評価について」  
講師 財団法人 鳥取県動物臨床医学研究所  
高島一昭先生  
演題 「小動物における抗菌剤の使い方」  
講師 第一製薬株式会社特薬部  
伊藤 隆先生

開催日 6月25日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「膝蓋骨脱臼の整復における経験談」  
講師 森島隆司先生

開催日 8月5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬猫の泌尿器病」  
講師 桑原康人先生

開催日 11月5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「股関節(前上方)脱臼固定法の応用」  
講師 吉岡 修先生

開催日 2月25日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「帝王切開時の硬膜外麻酔」  
講師 渡辺泰夫先生

開催日 2月29日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「心肺停止の予防と心肺蘇生」  
講師 日本獣医畜産大学  
教授 鷺巣 誠先生

開催日 3月4日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「高病原性鳥インフルエンザについて」  
講師 岐阜大学  
教授 福士秀人先生

### ○平成 16 年度

開催日 4月25日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「前腹部の画像診断  
～レントゲン読影と超音波検査所見～」  
講師 獣医教育・先端技術研究所  
所長 宮林孝仁先生

開催日 6月22日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「苦勞してますか？猫の歯肉口内炎」  
講師 小川幸哉先生

開催日 11月30日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「根治が望めない、がん患者のために」  
講師 鷺塚 章先生

開催日 1月15日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「消毒とガーゼの撲滅を目指し、今までの  
常識を覆す新しい創傷治療」  
講師 特定医療法人慈泉会相沢病院  
外傷治療センター長 夏井 睦先生

開催日 3月2日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「心臓検査：超音波検査を重点にして」  
講師 田口大介先生

開催日 3月6日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「眼科セミナー～眼科専門医に紹介する前  
にやっておくべきこと」  
講師 麻布大学  
印牧信行先生

### ○平成 17 年度

開催日 5月22日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「個人情報保護法の概要について」  
講師 名南税理士法人  
ISO 事業部長 伊藤 淳先生

開催日 6月12日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「最先端癌治療としてのヒトと犬の癌免疫療法」  
講師 北里大学  
伊藤 博先生

開催日 7月13日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「消化管内視鏡と腹腔鏡・膀胱鏡の実際」  
講師 石川勝行先生

開催日 2月12日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「腫瘍の外科と最新情報～肝葉切除と肺葉  
切除を含む～」  
講師 麻布大学  
信田卓男先生

開催日 3月14日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「術後鎮痛とブトルファノール製剤について」  
講師 明治製菓(株)動薬飼料部  
吉見 泰先生

### ○平成 18 年度

開催日 1月21日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「眼科診療の実際  
～症例から学ぶ診断の手順と治療～」  
講師 滝山 昭先生

開催日 2月9日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「小動物領域における止血異常～血液凝固  
検査の意義と測定法」  
講師 鬼頭克也先生

開催日 2月12日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「術後鎮痛とブトルファノール製剤について」  
講師 吉見 泰先生

### ○平成 19 年度

開催日 11月29日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「アレルギー疾患について」  
講師 岐阜大学応用生物学部  
准教授 前田貞俊先生

開催日 1月6日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「消化器疾患について～嘔吐・下痢を考える～」  
講師 日本大学生物資源科学部総合臨床獣医学  
亘 敏広先生

開催日 1月23日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「放射線防護技術研修会」  
講師 岐阜大学 獣医臨床放射線学  
宇塚雄次先生  
日本動物高度医療センター  
夏堀雅宏先生

開催日 2月14日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「放射線療法について」  
講師 岐阜大学応用生物学部  
准教授 森 崇先生

#### ○平成20年度

開催日 6月19日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「脳神経検査」  
講師 岐阜大学獣医臨床放射線学  
准教授 上野博史先生

#### ○平成21年度

開催日 8月6日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「乳腺腫瘍と肥満細胞腫の外科」  
講師 三重県開業 第一種腫瘍認定医  
生川幹洋先生

開催日 9月3日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「腹腔内腫瘍」  
講師 三重県開業 第一種腫瘍認定医  
生川幹洋先生

開催日 10月1日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「胸腔内腫瘍・頸部腫瘍」  
講師 三重県開業 第一種腫瘍認定医  
生川幹洋先生

開催日 10月23日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「門脈シャントと胆嚢疾患」  
講師 岐阜大学応用生物科学部附属動物病院  
専任教授 鷺巣 誠先生

開催日 11月5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「口腔内腫瘍」  
講師 三重県開業 第一種腫瘍認定医  
生川幹洋先生

開催日 1月10日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「心臓病の超音波による診断と治療」  
講師 宮崎大学獣医外科学研究室  
教授 萩尾光美先生

開催日 1月15日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「肝臓腫瘍、後大静脈浸潤性副腎腫瘍そして  
麻酔管理」  
講師 岐阜大学応用生物科学部附属動物病院  
専任教授 鷺巣 誠先生

#### ○平成22年度

開催日 10月22日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「人獣共通感染症  
～*Corynebacterium ulcerans* について～」  
講師 国立感染症研究所  
高橋元秀先生

開催日 12月19日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「神経疾患に対する苦手意識を克服しよう!!  
～神経学的検査・診断・治療に関する最新知見～」  
講師 日本大学獣医学科外科学研究室  
専任講師 枝村一弥先生

開催日 1月30日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「腹部の超音波による診断と治療」  
講師 東京大学  
中島 亘先生

#### ○平成23年度

開催日 10月2日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「神経疾患の診断アプローチ  
CT・MRIを撮る前にここまで詰めておこう!!  
～神経疾患の診断アプローチ・症例検討～」  
講師 岐阜大学応用生物科学部  
獣医学課程獣医臨床放射線学教室  
神志那弘明先生

開催日 1月22日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「一時診療における眼科診療の問題点」  
「眼科検査」  
「点眼薬の特徴と使い方」  
講師 日本大学  
滝山直昭先生

開催日 10月8日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「ブーノーシスとしてのトキシプラズマに関する最近の話題」  
講師 株式会社サエキサイエンス  
リサーチ&コンサルタンツ  
佐伯英治先生

#### ○平成24年度

開催日 7月22日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床獣医師のための放射線療法の基礎知識」  
講師 岐阜大学動物病院 腫瘍科  
森 崇先生

開催日 8月10日  
会場 ウィンクあいち 5階 小ホール  
演題 「東山動物園における教育普及活動  
～メダカからゾウまで～」  
講師 名古屋市東山動物園教育普及主幹  
黒邊雅実先生  
演題 「学校動物飼育と教育  
道徳心や生物知識、作文力の育成、そして  
将来の子育ての知識」  
講師 全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰  
中川美穂子先生

開催日 10月28日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「日常診療における細胞診断」  
講師 岐阜大学 獣医病理学研究室  
酒井洋樹先生

#### ○平成25年度

開催日 4月21日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「教育講演—周術期の体温管理—」  
講師 岐阜大学動物病院 麻酔科  
柴田早苗先生  
演題 「症例検討(1) 貧血診療のピットフォール  
—たかが貧血、されど貧血」  
講師 岐阜大学動物病院 血液内科  
鬼頭克也先生  
演題 「症例検討(2) 猫の骨軟骨腫症の一例」  
講師 岐阜大学動物病院 腫瘍科  
藤田誠司先生

開催日 10月10日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「輸血製剤流通実現に向けた動き」  
講師 JARMeC  
小川博之先生  
演題 「輸血に必要な技術」  
講師 株式会社共立製薬  
中村遊香先生  
演題 「臨床現場での輸血の実際」  
講師 JARMeC  
山下傑夫先生  
演題 「名古屋市獣医師会輸血システムのガイド  
ライン」  
講師 名古屋市獣医師会  
湯木正史先生

開催日 10月27日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「教育講演  
—がんを知り、がんを減らす犬がん登録を  
『岐阜県』からはじめよう—」  
講師 岐阜大学動物病院  
腫瘍科・比較がんセンター  
丸尾幸嗣先生  
演題 「症例検討(1) 原発性上皮小体機能亢進症の  
犬の4例」  
講師 岐阜大学動物病院 腫瘍科  
矢野将基先生  
演題 「症例検討(2) 猫の胸椎骨肉腫の2例」  
講師 岐阜大学動物病院 外科  
浅田慎也先生

#### ○平成26年度

開催日 1月16日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「麻酔薬関連薬の特徴」  
「バランス麻酔の概念」  
「周術期管理計画の立て方」  
講師 長濱正太郎先生

開催日 3月13日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「麻酔関連薬の特徴【復習】」  
「バランス麻酔の考え方」  
「麻酔計画の立て方」  
「モニタリングについて」  
講師 長濱正太郎先生

開催日 4月20日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「臨床獣医師と病理学的検査  
～細胞学的検査を中心に～」  
講師 村上麻美先生  
演題 「症例検討(1)  
骨腫瘍に対する放射線治療の疼痛緩和効果」  
講師 伊藤祐典先生  
演題 「症例検討(2)  
犬猫用ステロイド系麻酔薬アルファキサロンの臨床的有用性について」  
講師 柴田早苗先生

開催日 6月19日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「モニタリングについて」  
講師 長濱正太郎先生

開催日 8月28日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「末梢神経ブロックをマスターしよう!(前編)」  
講師 長濱正太郎先生

開催日 9月11日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「末梢神経ブロックをマスターしよう!(後編)」  
講師 長濱正太郎先生

開催日 10月16日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「人獣共通感染症としてのカンピロバクター感染症」  
講師 三澤尚明先生

開催日 10月23日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「麻酔導入の動画を見ながらみんなでディスカッションしよう!」  
講師 長濱正太郎先生

開催日 11月9日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「小動物臨床における腹腔鏡手術の有用性」  
講師 近藤元紀先生  
演題 「症例検討(1)  
岐阜大学腫瘍科におけるパラディアの使用経験」  
講師 松井直子先生  
演題 「症例検討(2)  
全身性エリテマトーデスを疑う免疫介在性疾患の犬の1例」  
講師 内藤瑛治先生

開催日 11月30日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「開業医のためのエックス線および超音波画像診断」  
講師 前田貞俊先生

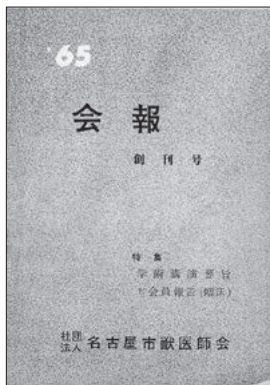
開催日 1月25日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「実践的心肺蘇生術  
～RECOVERガイドラインの理解と実践～」  
講師 佐野忠士先生

開催日 2月5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「犬と猫の乳腺腫瘍」  
講師 古川敬之先生

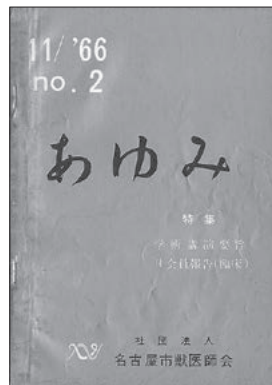
開催日 3月5日  
会場 名古屋市獣医師会館  
演題 「椎間板ヘルニア」  
講師 穴澤哲也先生

# あゆみ

名古屋市獣医師会が社団認定を受け、公益社団法人名古屋市獣医師会となった昭和40年度に「あゆみ」は創刊され会報として、学術研究発表や会に対する希望、意見などが多数掲載された。現在でも名古屋市獣医師会の多くの活動を掲載する機関紙として年に1回発行されており、平成25年度から会の活動をより多くの一般市民に紹介するためホームページにも掲載されるようになった。



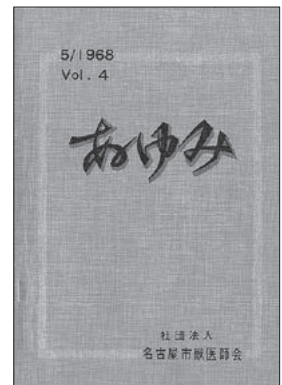
Vol.1  
(S41.3.1)



Vol.2  
(S41.11.9)



Vol.3  
(S42.5.13)



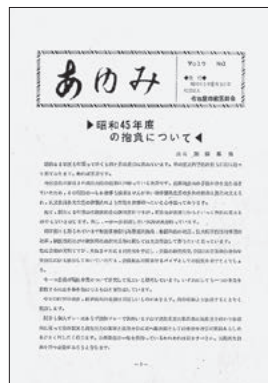
Vol.4  
(S43.5.10)



Vol.5 No.1  
(S43.9.20)



Vol.5 No.2  
(S44.3.20)



Vol.7 No.1  
(S45.8.30)



Vol.8 No.1  
(S47.9.30)



Vol.8 No.2  
(S48.3.31)



Vol.9 No.1  
(S48.12.31)



Vol.9 No.2  
(S49.3.31)



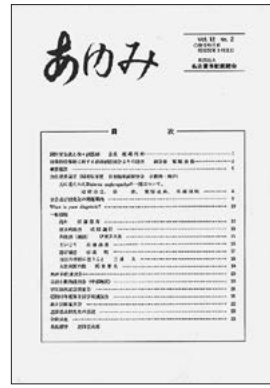
Vol.10 No.1  
(S50.3.15)



Vol.11 No.1,2  
(S51.1.31)



Vol.12 No.1  
(S51.12.10)



Vol.12 No.2  
(S52.3.31)



Vol.13 No.1  
(S53.1.31)



Vol.13 No.2  
(S53.5.20)



Vol.14 No.1  
(S53.11.20)



Vol.14 No.2  
(S54.5.20)



Vol.15 No.1  
(S54.11.30)



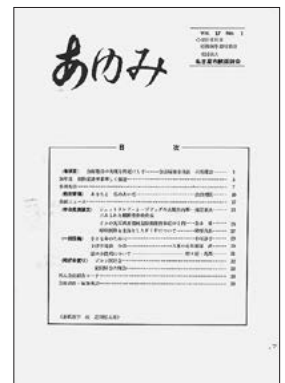
Vol.15 No.2  
(S55.5.10)



Vol.16 No.1  
(S55.11.15)



Vol.16 No.2  
(S56.5.20)



Vol.17 No.1  
(S56.12.15)



Vol.17 No.2  
(S57.5.20)



Vol.18 No.1  
(S58.1.31)



Vol.18 No.2  
(S58.5.21)



Vol.19 No.1  
(S58.11.1)



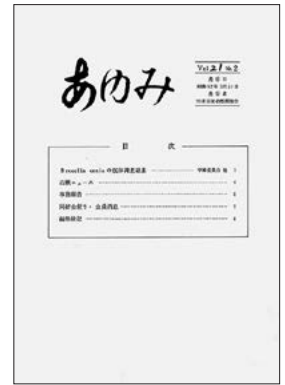
Vol.19 No.2  
(S59.5.20)



Vol.20 No.1  
(S61.4.30)



Vol.21 No.1  
(S61.11.1)



Vol.21 No.2  
(S62.3.31)



Vol.22 No.1  
(S63.3.1)



Vol.23 No.1  
(H1.3.20)



Vol.24 No.1  
(H2.3.18)



Vol.25 No.1  
(H2.10.27)



Vol.27  
(H4.3.26)



Vol.28  
(H5.3.15)



Vol.29  
(H6.3.15)



Vol.30  
(H7.3.15)



Vol.31  
(H8.3.15)



Vol.32  
(H9.3.15)



Vol.33  
(H10.3.15)



Vol.34  
(H11.3.15)

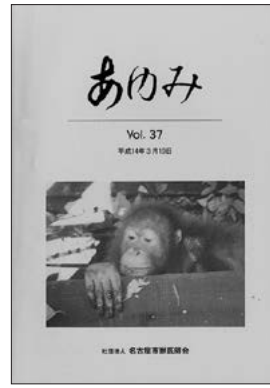




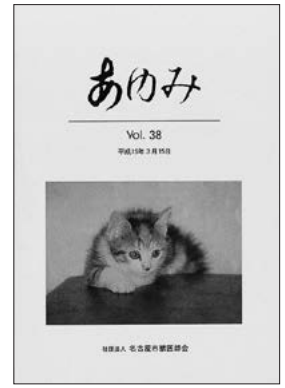
Vol.35  
(H12.3.24)



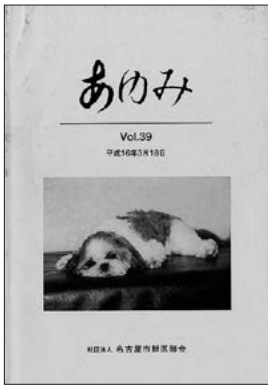
Vol.36  
(H13.3.23)



Vol.37  
(H14.3.19)



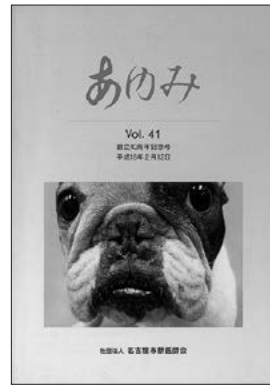
Vol.38  
(H15.3.15)



Vol.39  
(H16.3.18)



Vol.40  
(H17.3.25)



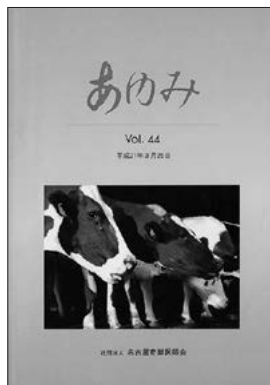
Vol.41  
(H18.2.12)



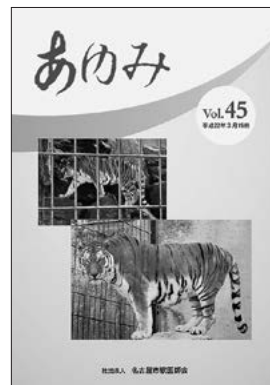
Vol.42  
(H19.3.23)



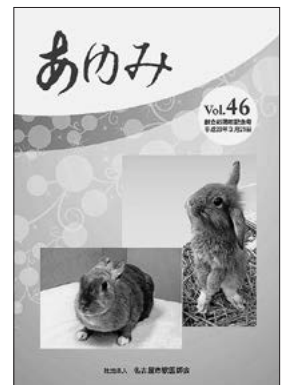
Vol.43  
(H20.3.19)



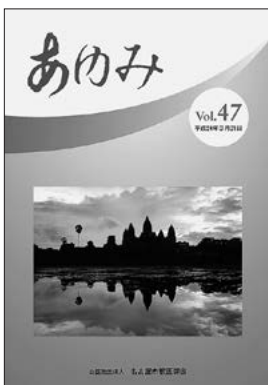
Vol.44  
(H21.3.25)



Vol.45  
(H22.3.19)



Vol.46  
(H23.3.21)



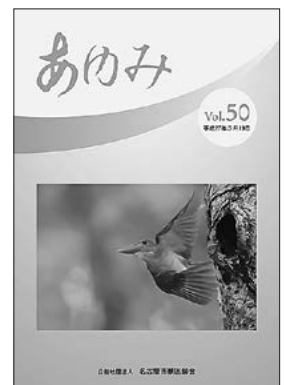
Vol.47  
(H24.3.21)



Vol.48  
(H25.3.22)



Vol.49  
(H26.3.19)



Vol.50  
(H27.3.19)

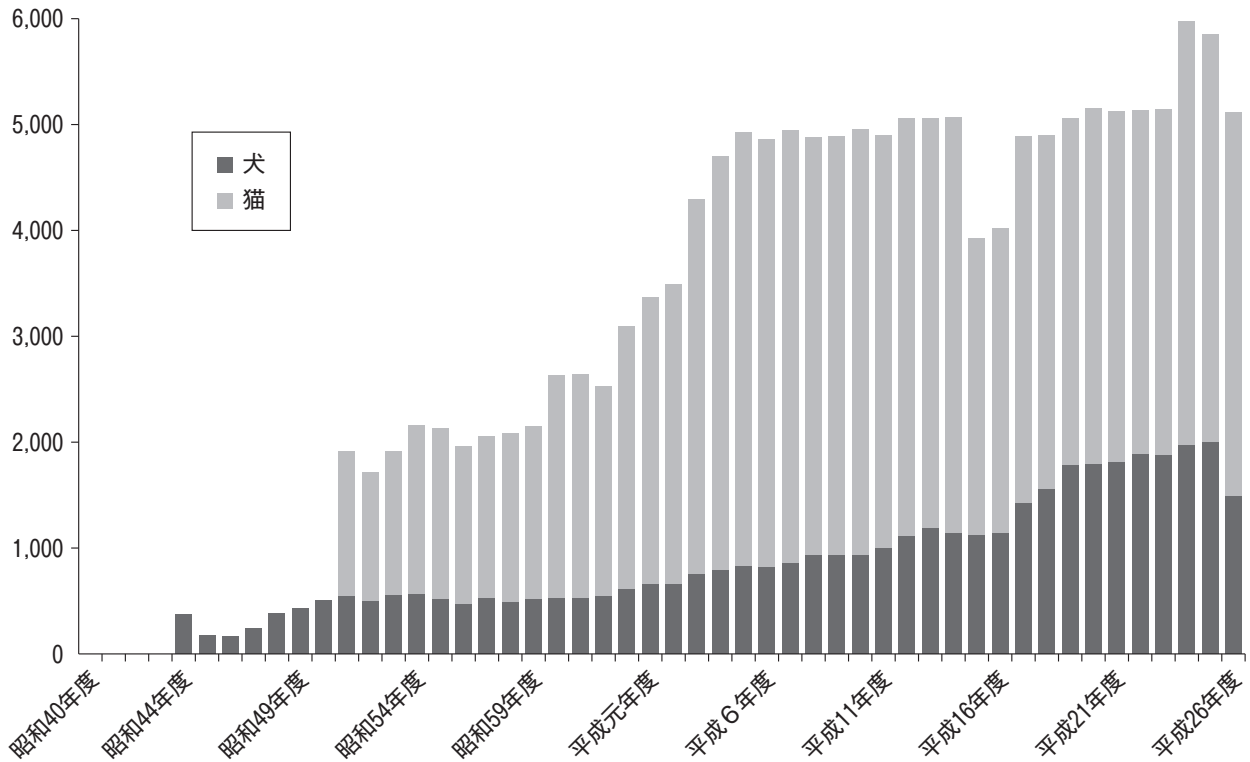
# 避妊去勢手術助成事業

名古屋市獣医師会では、犬は昭和44年度、猫は昭和51年度から一部名古屋市の助成も受け、望まない繁殖による不幸な子犬や子猫を出さないため、また周囲に対する危害や迷惑の未然防止、動物愛護の普及啓発のために、犬・猫の避妊・去勢手術助成事業を行っている。

年 度	上段：上期 下段：下期	犬避妊	犬去勢	犬避去計	年度別 犬頭数	猫避妊	猫去勢	猫避去計	年度別 猫頭数	避去合計
昭和40年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和41年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和42年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和43年度	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
昭和44年度	—	297	79	376	376	—	—	—	—	376
昭和45年度	—	138	40	178	178	—	—	—	—	178
昭和46年度	—	127	41	168	168	—	—	—	—	168
昭和47年度	上期(S47.4～9)	—	—	—	237	—	—	—	—	237
	下期(S47.10～)	194	43	237		—	—	—	—	
昭和48年度	上期(S48.4～9)	171	30	201	378	—	—	—	—	378
	下期(S48.10～)	141	36	177		—	—	—	—	
昭和49年度	上期(S49.4～9)	192	55	247	434	—	—	—	—	434
	下期(S49.10～)	147	40	187		—	—	—	—	
昭和50年度	上期(S50.4～9)	201	58	259	504	—	—	—	—	504
	下期(S50.10～)	204	41	245		—	—	—	—	
昭和51年度	上期(S51.4～9)	233	65	298	547	669	113	782	1,362	1,909
	下期(S51.10～S52.2)	194	55	249		464	116	580		
昭和52年度	上期(S52.4～9)	276	66	342	497	756	145	901	1,218	1,715
	下期(S52.11～12)	122	33	155		286	31	317		
昭和53年度	上期(S53.4～9)	—	—	376	555	—	—	959	1,354	1,909
	下期(S53.10～12)	—	—	179		—	—	395		
昭和54年度	上期(S54.4～9)	—	—	364	566	—	—	1,013	1,591	2,157
	下期(S54.10～S55.1)	—	—	202		—	—	578		
昭和55年度	上期(S55.4～9)	—	—	290	519	—	—	818	1,610	2,129
	下期(S55.10～S56.3)	—	—	229		—	—	792		
昭和56年度	上期(S56.4～9)	—	—	267	478	—	—	865	1,487	1,965
	下期(S56.10～S57.1)	—	—	211		—	—	622		
昭和57年度	上期(S57.4～9)	—	—	304	531	—	—	995	1,528	2,059
	下期(S57.10～S58.2)	—	—	227		—	—	533		
昭和58年度	S58.4～S59.2	—	—	491	491	—	—	1,591	1,591	2,082
昭和59年度	S59.5～12	—	—	521	521	—	—	1,633	1,633	2,154
昭和60年度	S60.5.1～11.16	—	—	529	529	—	—	2,106	2,106	2,635
昭和61年度	S61.5.1～10.16	—	—	530	530	—	—	2,114	2,114	2,644
昭和62年度	—	455	92	547	547	1,529	454	1,983	1,983	2,530
昭和63年度	上期(S63.5～9)	436	86	522	612	1,555	473	2,028	2,477	3,089
	下期(S63.10～H1 H1.3)	81	9	90		370	79	449		
平成元年度	上期(H1.5～9)	422	79	501	665	1,357	517	1,874	2,703	3,368
	下期(H1.10～H2.2)	130	34	164		625	204	829		
平成2年度	上期(H2.5～9)	406	80	486	669	1,432	509	1,941	2,825	3,494
	下期(H2.10～H3.2)	150	33	183		669	215	884		
平成3年度	上期(H3.5～9)	381	95	476	763	1,369	537	1,906	3,534	4,297
	下期(H3.10～H4.2)	226	61	287		1,129	499	1,628		
平成4年度	上期(H4.5～9)	380	101	481	798	1,331	571	1,902	3,904	4,702
	下期(H4.10～H5.2)	248	69	317		1,356	646	2,002		
平成5年度	上期(H5.5～9)	349	85	434	832	1,233	530	1,763	4,092	4,924
	下期(H5.10～H6.3)	294	104	398		1,519	810	2,329		
平成6年度	上期(H6.5～9)	334	133	467	822	1,177	539	1,716	4,035	4,857
	下期(H6.10～H7.3)	248	107	355		1,498	821	2,319		
平成7年度	上期(H7.5～9)	338	150	488	866	1,122	567	1,689	4,084	4,950
	下期(H7.10～H8.3)	278	100	378		1,511	884	2,395		
平成8年度	上期(H8.5～9)	372	141	513	933	1,095	573	1,668	3,946	4,879
	下期(H8.10～H9.3)	277	143	420		1,349	929	2,278		

年 度	上段：上期 下段：下期	犬避妊	犬去勢	犬避去計	年度別 犬頭数	猫避妊	猫去勢	猫避去計	年度別 猫頭数	避去合計
平成9年度	上期(H9.5～9)	339	197	536	936	1,246	646	1,892	3,953	4,889
	下期(H9.10～H10.2)	253	147	400		1,201	860	2,061		
平成10年度	上期(H10.5～9)	332	180	512	935	1,178	669	1,847	4,020	4,955
	下期(H10.10～H11.3)	255	168	423		1,316	857	2,173		
平成11年度	上期(H11.5～9)	378	187	565	1,000	1,160	653	1,813	3,893	4,893
	下期(H11.10～H12.3)	301	134	435		1,209	871	2,080		
平成12年度	上期(H12.5～9)	371	235	606	1,118	1,089	622	1,711	3,941	5,059
	下期(H12.10～H13.3)	288	224	512		1,298	932	2,230		
平成13年度	上期(H13.5～9)	348	268	616	1,195	893	605	1,498	3,868	5,063
	下期(H13.10～H14.3)	339	240	579		1,415	955	2,370		
平成14年度	上期(H14.5～9)	335	223	558	1,141	985	518	1,503	3,926	5,067
	下期(H14.10～H15.3)	331	252	583		1,421	1,002	2,423		
平成15年度	上期(H15.5～9)	362	284	646	1,125	857	499	1,356	2,802	3,927
	下期(H15.10～H16.2)	293	186	479		788	658	1,446		
平成16年度	上期(H16.5～9)	344	296	640	1,141	867	532	1,399	2,876	4,017
	下期(H16.10～H17.3)	278	223	501		806	671	1,477		
平成17年度	上期(H17.4～9)	413	354	767	1,431	999	606	1,605	3,463	4,894
	下期(H17.10～H18.3)	394	270	664		1,070	788	1,858		
平成18年度	上期(H18.4～9)	402	356	758	1,558	924	545	1,469	3,341	4,899
	下期(H18.10～H19.3)	430	370	800		1,052	820	1,872		
平成19年度	上期(H19.4～9)	525	461	986	1,784	876	589	1,465	3,274	5,058
	下期(H19.10～H20.2)	448	350	798		1,002	807	1,809		
平成20年度	上期(H20.4～9)	504	509	1,013	1,795	938	620	1,558	3,354	5,149
	下期(H20.10～H21.2)	435	347	782		962	834	1,796		
平成21年度	上期(H21.4～9)	527	493	1,020	1,815	963	655	1,618	3,309	5,124
	下期(H21.10～H22.2)	428	367	795		889	802	1,691		
平成22年度	上期(H22.4～9)	547	490	1,037	1,894	983	639	1,622	3,247	5,141
	下期(H22.10～H23.3)	459	398	857		871	754	1,625		
平成23年度	上期(H23.4～9)	519	510	1,029	1,883	995	612	1,607	3,265	5,148
	下期(H23.10～H24.2)	472	382	854		878	780	1,658		
平成24年度	上期(H24.4～9)	546	478	1,024	1,974	936	627	1,563	3,996	5,970
	下期(H24.10～H25.3)	523	427	950		1,303	1,130	2,433		
平成25年度	上期(H25.4～9)	501	498	999	2,001	836	571	1,407	3,852	5,853
	下期(H25.10～H26.3)	538	464	1,002		1,324	1,121	2,445		
平成26年度	上期(H26.4～9)	377	381	758	1,492	746	557	1,303	3,622	5,114
	下期(H26.10～H27.3)	368	366	734		1,241	1,078	2,319		

### 避妊去勢手術補助実施頭数



# 動物フェスティバル

「動物保護及び管理に関する法律」に基づき、東京都に引き続き昭和51年より名古屋市と当会主催で毎年開催されている。

回	年度	月日	場所
1	昭和51年度	9月26日	久屋大通公園 久屋広場
2	昭和52年度	9月25日	久屋大通公園 久屋広場
3	昭和53年度	9月23日 24日	久屋大通公園 久屋広場
4	昭和54年度	9月23日 24日	久屋大通公園 久屋広場
5	昭和55年度	9月21日	久屋大通公園 久屋広場
6	昭和56年度	9月23日	久屋大通公園 久屋広場
7	昭和57年度	9月23日	久屋大通公園 久屋広場
8	昭和58年度	9月25日	久屋大通公園 久屋広場
9	昭和59年度	9月22日	久屋大通公園 久屋広場
10	昭和60年度	9月22日	久屋大通公園 久屋広場
11	昭和61年度	9月22日	久屋大通公園 久屋広場
12	昭和62年度	9月21日	久屋大通公園 久屋広場
13	昭和63年度	9月25日	大雨洪水警報で中止
14	平成元年度	8月20日	世界デザイン博 協賛 名古屋港会場
		9月24日 (代替)	若宮大通公園 若宮広場 人と動物のふれあいキャ ンペーン
15	平成2年度	9月21日	久屋大通公園 久屋広場
16	平成3年度	9月22日	若宮大通公園 若宮広場
17	平成4年度	9月18日	久屋大通公園 久屋広場
18	平成5年度	9月26日	久屋大通公園 久屋広場

回	年度	月日	場所
19	平成6年度	9月25日	久屋大通公園 久屋広場
20	平成7年度	9月24日	久屋大通公園 久屋広場
21	平成8年度	9月22日	久屋大通公園 久屋広場
22	平成9年度	9月21日	久屋大通公園 久屋広場
23	平成10年度	9月20日	久屋大通公園 久屋広場
24	平成11年度	9月26日	久屋大通公園 久屋広場
25	平成12年度	9月24日	久屋大通公園 久屋広場
26	平成13年度	9月23日	久屋大通公園 久屋広場
27	平成14年度	9月22日	久屋大通公園 久屋広場
28	平成15年度	9月21日	久屋大通公園 久屋広場
29	平成16年度	9月26日	白川公園
30	平成17年度	9月18日	久屋大通公園 久屋広場
31	平成18年度	9月23日	久屋大通公園 久屋広場
32	平成19年度	9月24日	久屋大通公園 久屋広場
33	平成20年度	9月21日	久屋大通公園 久屋広場 午後 大雨洪水警報で中止
34	平成21年度	9月13日	久屋大通公園 久屋広場
35	平成22年度	9月12日	久屋大通公園 久屋広場
36	平成23年度	10月9日	久屋大通公園 久屋広場
37	平成24年度	10月14日	久屋大通公園 久屋広場
38	平成25年度	10月13日	久屋大通公園 久屋広場
39	平成26年度	10月12日	久屋大通公園 久屋広場

# A I C

昭和48年に「動物の愛護と管理に関する法律」が公布され、それに基づき動物インフォメーションセンター（AIC）が昭和55年開設された。AICでは、捨て犬、捨て猫の防止策として、譲渡犬・猫、迷い犬・猫、捨て犬・猫の情報交換を行っており、その動物愛護思想を市民に広げるための情報源としてAICニュースが昭和55年9月20日に創刊され、現在も年に1回発行されている。



No.1  
(S55.9.20)



No.2  
(S56.9.18)



No.3  
(S57.9.18)



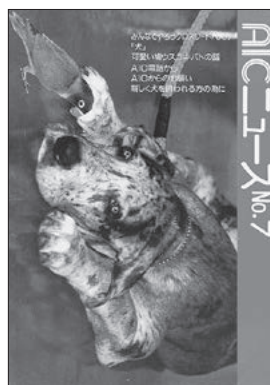
No.4  
(S58.7.30)



No.5  
(S59.7.30)



No.6  
(S60)



No.7  
(S60.9.15)



No.8  
(S61.9.1)



No.9  
(S63.3.1)



No.10  
(S63.7.1)



No.11  
(H1.8.15)



No.12  
(H2.8.15)





# 人獣共通感染症調査事業

名古屋市より人畜共通感染症実態調査事業を受託し、名古屋市内の動物を対象に調査を行っている。

年 度	調査名
昭和56・57年度	飼犬・猫のトキソプラズマ感染実態調査
昭和58・59年度	飼犬のレプトスピラ感染実態調査
昭和60・61年度	飼犬のブルセラ・カニス感染実態調査
昭和62・63年度	飼犬のパスツレラ・ムルトシダ保菌実態調査
平成元年度	飼犬のキャンピロバクター・ジェジュニ保菌実態調査
平成2年度	飼犬のミクロスポーラム・カニスの保菌実態調査
平成3年度	糞便中の回虫卵実態調査
平成4年度	飼犬・飼猫に寄生するノミの実態調査
平成5年度	飼犬のサルモネラ保有実態調査
平成6年度	飼犬のミクロフィラリア検出状況実態調査
平成7年度	飼猫の口腔内細菌実態調査
平成8年度	飼猫の鼻腔内細菌感染実態調査
平成9年度	飼猫のトキソプラズマ抗体保有率調査
平成10年度	飼猫の爪部における人畜共通感染菌の保菌調査
平成11年度	飼犬及び飼猫におけるQ熱の抗体保有率調査
平成12年度	Q熱抗体を保有する飼犬及び飼猫の飼育環境等調査
平成13年度	エキゾチックアニマルの糞便における人獣共通感染症起因菌の保有状況調査
平成14年度	飼鳥のオウム病クラミジア保有状況調査
平成15年度	飼犬・猫のレプトスピラ抗体調査
平成16年度	飼犬の糞線虫保有状況調査
平成17年度	飼鳥のオウム病クラミジア保有状況調査
平成18年度	飼猫のバルトネラ属菌保菌状況調査
平成19年度	飼犬・猫・ウサギの野兎病菌保有状況調査
平成20年度	飼犬のカンピロバクター菌保有状況調査
平成21年度	飼犬のバルトネラ属菌保菌状況調査
平成22年度	飼猫のジフテリア毒素産生性コリネバクテリウム・ウルセランス保有状況調査
平成23年度	飼犬猫のカプノサイトファーガ・カニモルサス保有状況調査
平成24年度	飼猫の口腔内および爪部におけるパスツレラ・ムルトシダ保有状況調査
平成25年度	飼猫のトキソプラズマ感染調査
平成26年度	名古屋市内で飼育されているネコのカンピロバクター属菌保有状況調査



# テレフンドクター

「身近な動物達に関する様々な疑問に、獣医さんが気軽に答えてくださる制度があればいいですね…」

このような飼い主さん達の素朴な要望に応え、数多い動物愛護事業の一環として、昭和62年10月1日より、イヌ、ネコは言うに及ばず、エキゾチックアニマル（ウサギ、ハムスター、フェレット、リス、プレーリードッグ、カメ、モルモット、サル等々）や野生動物も含め、その「病気」「予防」「飼い方」「習性」などに関して、臨床獣医師による無料電話相談を開始した。

このテレフンドクター制度は、名古屋市の助成事業でもあり、市民の方々を主な対象として始まったが、今では北は北海道より、南は九州に至る各地より相談が寄せられている。

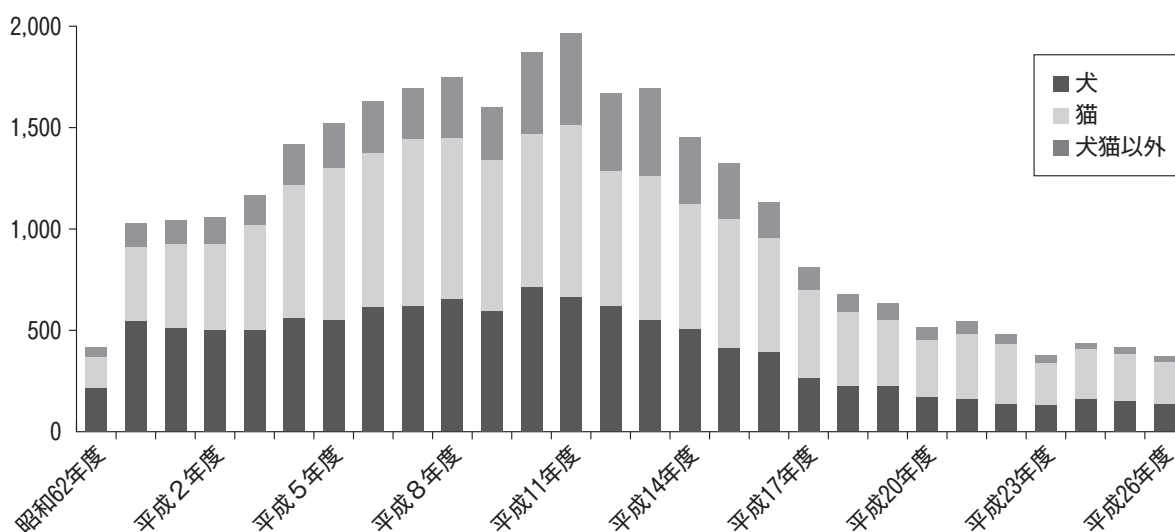
年 度	犬	猫	飼鳥	野鳥	エキゾ	その他	合計
昭和62年度	213	152	34	3	8	2	412
昭和63年度	544	362	85	4	22	8	1025
平成元年度	507	414	66	3	45	5	1040
平成2年度	499	422	72	10	48	6	1057
平成3年度	499	514	65	19	53	13	1163
平成4年度	556	659	79	12	72	36	1414
平成5年度	545	752	112	20	74	14	1517
平成6年度	613	758	114	31	76	35	1627
平成7年度	618	822	92	30	123	8	1693
平成8年度	651	793	108	20	165	12	1749
平成9年度	593	743	88	27	136	12	1599
平成10年度	712	750	187	29	166	27	1871
平成11年度	661	847	258	29	152	18	1965
平成12年度	615	668	223	27	121	14	1668

年 度	犬	猫	飼鳥	野鳥	エキゾ	その他	合計
平成13年度	549	707	241	45	143	7	1692
平成14年度	504	615	196	37	94	6	1452
平成15年度	410	633	166	29	75	7	1320
平成16年度	389	562	95	14	47	21	1128
平成17年度 <sup>*1</sup>	263	434	73	7	28	4	809
平成18年度	221	366	51	11	23	5	677
平成19年度	221	329	51	6	20	5	632
平成20年度	167	282	33	7	22	2	513
平成21年度	156	322	35	8	20	1	542
平成22年度 <sup>*2</sup>	131	298	25	2	17	3	476
平成23年度	129	206	17	3	15	4	374
平成24年度	157	246	17	3	10	1	434
平成25年度	148	229	12	2	15	9	415
平成26年度	133	208	16	2	11	0	370

※1 年間開催日数減（月曜日がなくなった）

※2 東日本大震災の月は相談数0の日が多くあった

テレフンドクター件数

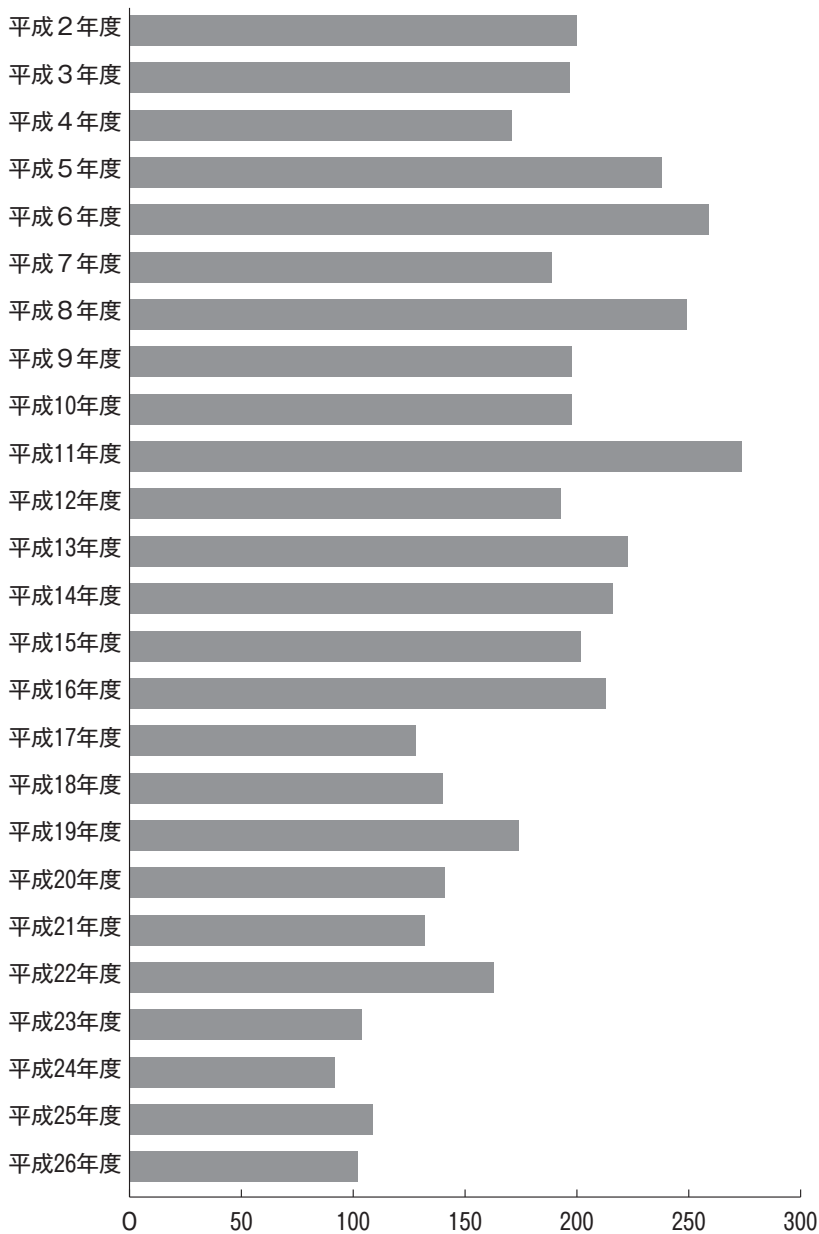


# 傷病野生鳥獣保護事業

愛知県獣の傷病野生鳥獣保護事業受託、および名古屋市の傷病野生鳥獣保護受託にあたり、名古屋市内の傷病鳥獣保護を受託担当している。

但し、平成26年からは、名古屋市からの受託だけとなった。

傷病野生鳥獣保護件数



年 度	保護件数
平成2年度	200
平成3年度	197
平成4年度	171
平成5年度	238
平成6年度	259
平成7年度	189
平成8年度	249
平成9年度	198
平成10年度	198
平成11年度	274
平成12年度	193
平成13年度	223
平成14年度	216
平成15年度	202
平成16年度	213
平成17年度	128
平成18年度	140
平成19年度	174
平成20年度	141
平成21年度	132
平成22年度	163
平成23年度	104
平成24年度	92
平成25年度	109
平成26年度	102

# 長寿功勞動物表彰

平成3年度より動物フェスティバル前夜祭において表彰を行っていたが、平成17年度より長寿功勞動物表彰と変更した。

動物愛護精神普及のため、記念講演及び長寿功勞猫及び功勞動物の表彰式を開催し、長寿功勞猫・功勞動物には表彰状を贈呈し、その長寿と功勞をたたえている。

回	年 度	月 日	場 所
1	平成3年度	9月21日	名古屋市獣医師会館
2	平成4年度	2月27日	名古屋市獣医師会館
		9月19日	名古屋市獣医師会館
3	平成5年度	9月25日	名古屋市獣医師会館
4	平成6年度	9月24日	名古屋市獣医師会館
5	平成7年度	9月23日	名古屋市獣医師会館
6	平成8年度	9月21日	名古屋市獣医師会館
7	平成9年度	9月20日	名古屋市獣医師会館
8	平成10年度	9月19日	名古屋市獣医師会館
9	平成11年度	9月25日	名古屋市獣医師会館
10	平成12年度	9月23日	名古屋市獣医師会館
11	平成13年度	9月22日	名古屋市獣医師会館
12	平成14年度	9月21日	名古屋市獣医師会館

回	年 度	月 日	場 所
13	平成15年度	9月20日	ローズコートホテル
14	平成16年度	9月25日	名古屋市獣医師会館
15	平成17年度	9月17日	名古屋市獣医師会館
16	平成18年度	9月16日	名古屋市獣医師会館
17	平成19年度	9月22日	名古屋市獣医師会館
18	平成20年度	9月20日	名古屋市獣医師会館
19	平成21年度	9月19日	名古屋市獣医師会館
20	平成22年度	9月18日	名古屋市獣医師会館
21	平成23年度	9月17日	名古屋市獣医師会館
22	平成24年度	9月15日	名古屋市獣医師会館
23	平成25年度	9月21日	名古屋市獣医師会館
24	平成26年度	9月20日	名古屋市獣医師会館

# 夜間動物緊急診療所の運営について

## (1)施設のプロフィール

名 称	社団法人名古屋市獣医師会 夜間動物緊急診療所
場 所	名古屋市中区大須4-12-21 名古屋市獣医師会館1F
開 設 日	平成16年5月15日
診療時間	午後9時～午前2時（年中無休）
診療体制	獣医師3～5名、動物看護師3～4名
診療業務	小動物の緊急診療 所有者不明の負傷動物救護 無料の電話相談（テレフォンドクター）

## (2)設立の経緯

近年、ペットがコンパニオンアニマルと呼ばれる時代となり、飼主の獣医療に対する要望が高まっており、その中でも夜間の救急診療を望む声が大きくなっている。小動物の救急診療は、全国で一部の会社組織が対応しているが、公益を目的に掲げて開設・運営しているところは皆無であった。また、所有者不特定の負傷動物の緊急診療対応は、休日の日中であっても臨床獣医師個々のボランティア受診に頼るところが大半であり、ましてや夜間ともなれば緊急診療、収容窓口は皆無であった。

本会は、救急診療に関し名古屋地区の会員外病院での誇大広告、多額の診療費の請求、診療体制の不備などの問題を憂慮し、獣医師界全体の信頼低下を危惧していた。このような状況に鑑み、適正獣医療を望む市民の声に応えるべく、公益法人としての名古屋市獣医師会が夜間救急診療を行うことを検討してきた。

特に、平成15年4月、現執行体制より、動物生命の尊厳の追及と動物愛護の啓発向上を目的として、救急獣医療体制の整備充実こそ公益法人の社会的責務と位置付け、夜間動物緊急診療所の開設に向けてプロジェクトチームを立ち上げた。この中で、本事業の基本方針作成のため、会員アンケート、他施設への視察、検討会議等を重ね、名古屋市獣医師会館において年中無休、専従スタッフの雇用による運営、設立資金として1,600万円余の投入を打ち出し、平成16年の開設を目指した。その間、会員より運営上の問題点として、主治医との診療上の差異、時間帯からくる治安不安、診療スタッフ、運営維持費の確保等が提起されたが、本事業の必要性について会員と根気よく話し合い、一つ一つ問題解決を図り、その結果、総会の承認を得て、平成16年5月15日、全国で初めて社団法人日本獣医師会の後援を受け、「社団法人名古屋市獣医師会夜間動物緊急診療所」を開設した。

### (3)運営概要

#### 施設—設備

施設	名古屋市獣医師会館	敷地面積	510.21㎡
		建物面積	325.84㎡
		診療検査室	44.25㎡
		飼育管理室	14.98㎡
		待合ホール	15.00㎡
		控え室	22.08㎡

設備 レントゲン撮影装置、超音波診断装置、大型 ICU 犬舎、手術モニター

(協力：名古屋市獣医師協同組合)

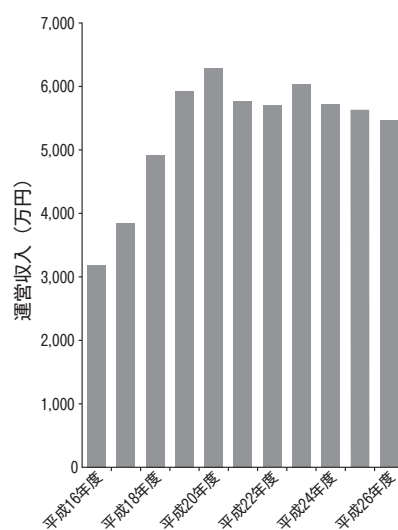
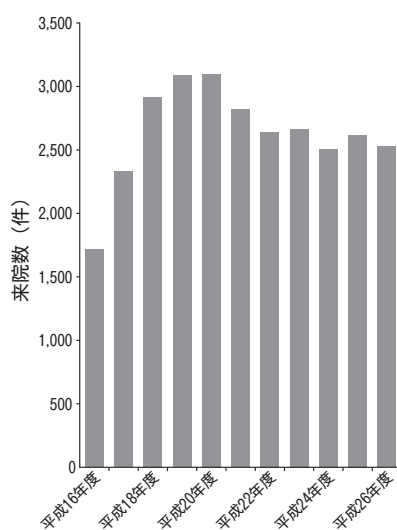
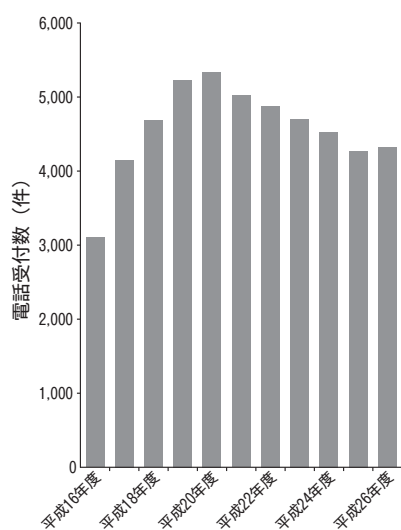
血液検査機械、麻酔器、診療台等

#### 来院件数・収支状況

公益法人会計基準に従って、救急獣医療会計として特別会計処理をしているが、開設時に一般会計より 1600 万円の貸付で、運営をスタートし、初年度は消費税の負担がなかったこと、正職員が 3 名のみであったことで、一定の収益が残ったが、翌年度は、来院者の増加に対応するため職員の追加雇用、納税等によって 360 万の赤字に推移した。その後、知名度の向上もあって診療件数が順調に増加して、平成 19 年度の収支は、一応黒字を計上した。その後は景気の変動の影響を受けながらも安定した収支で運営している。

	平成 16年度	平成 17年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 20年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 23年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 26年度
電話受付数(件)	3,101	4,151	4,681	5,230	5,336	5,019	4,879	4,707	4,527	4,272	4,321
来院数(件)	1,715	2,330	2,919	3,085	3,098	2,817	2,642	2,666	2,507	2,617	2,527
運営収入(万円)	3,187	3,842	4,923	5,930	6,290	5,774	5,699	6,043	5,713	5,633	5,463

集計期間(平成16年5月15日～平成27年3月31日)



診療単価	平成 16 年度	18,500 円	平成 22 年度	21,600 円
(運営収入 ÷ 来院数)	平成 17 年度	16,500 円	平成 23 年度	22,700 円
	平成 18 年度	16,800 円	平成 24 年度	22,800 円
	平成 19 年度	19,200 円	平成 25 年度	21,500 円
	平成 20 年度	20,300 円	平成 26 年度	21,600 円
	平成 21 年度	20,500 円		

## その他

### ・所有者不特定負傷動物救護事業

営利を目的としない公益法人が直接運営することによって、所有者が不特定の負傷動物であっても、夜間での応急処置を必要とする動物たちへ救護実践することで動物愛護の基本理念を追求し、行政の手が回りきらない部分を補完することによって、社会の要請に応じていくことを目的としている。

### 負傷動物収容状況

平成 16 年度：犬 6 頭、猫 7 頭

飼主返還 4 頭、里親 2 頭、収容治療中 3 頭、死亡 4 頭

平成 17 年度：犬 1 頭、猫 4 頭

飼主返還 1 頭、収容治療中 2 頭、死亡 2 頭

平成 18 年度：犬 6 頭、猫 22 頭

飼主返還 2 頭、会員施設収容 12 頭

平成 19 年度：犬 3 頭、猫 19 頭

飼主返還 2 頭、会員施設収容 15 頭、里親 2 頭

平成 20 年度：犬 0 頭、猫 11 頭、鳩 1 羽

飼主返還 0 頭、会員施設収容 7 頭

平成 21 年度：犬 0 頭、猫 15 頭

飼主返還 0 頭、会員施設収容 3 頭、里親 1 頭、死亡 11 頭

平成 22 年度：犬 1 頭、猫 5 頭

飼主返還 0 頭、会員施設収容 3 頭、里親 2 頭、死亡 1 頭

平成 23 年度：犬 1 頭、猫 6 頭

飼主返還 1 頭、会員施設収容 1 頭、里親 1 頭、死亡 4 頭

平成 24 年度：犬 0 頭、猫 3 頭

飼主返還 0 頭、会員施設収容 0 頭、里親 1 頭、死亡 2 頭

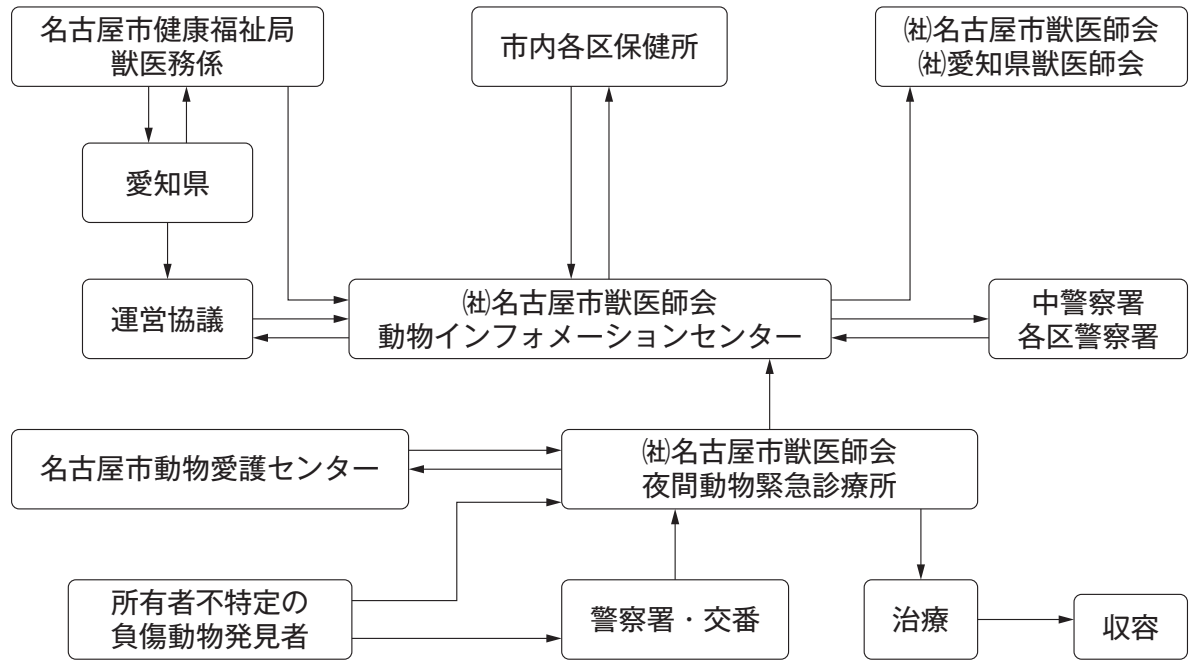
平成 25 年度：犬 0 頭、猫 9 頭、鳥 1 羽、うさぎ 1 羽

飼主返還 1 頭、会員施設収容 1 頭、里親 0 頭、死亡 9 頭

平成 26 年度：犬 0 頭、猫 3 頭、鳥 1 羽、狸 1 頭

飼主返還 1 頭、会員施設収容 1 頭、里親 1 頭、死亡 2 頭

・負傷動物救護連絡体系



・テレフォンドクター（夜間）

夜間動物緊急診療所の診療時間内に、獣医師による「テレフォンドクター」を開設し、飼主の不安や病気の疑問の解消を図っている。

相談件数

平成 16 年度	1,386 件	（1 日平均 4.3 件）	平成 22 年度	2,237 件	（1 日平均 6.1 件）
平成 17 年度	1,821 件	（1 日平均 4.9 件）	平成 23 年度	2,041 件	（1 日平均 5.6 件）
平成 18 年度	1,762 件	（1 日平均 4.8 件）	平成 24 年度	2,020 件	（1 日平均 5.5 件）
平成 19 年度	2,145 件	（1 日平均 5.8 件）	平成 25 年度	1,655 件	（1 日平均 4.5 件）
平成 20 年度	2,238 件	（1 日平均 6.1 件）	平成 26 年度	1,794 件	（1 日平均 4.9 件）
平成 21 年度	2,202 件	（1 日平均 6.0 件）			

# 学校飼育動物

名古屋市獣医師会の学校飼育動物委員会は平成22年から実質的活動を始めました。現時点ではまだ行政との提携はなく、学校獣医師としての地位はありません。しかし、名古屋市教育委員会との接触を通じ、各小学校の動物介在教育への理解は広がり、獣医師会としての公益活動は前進しています。

## 学校飼育動物委員会のあゆみ

名古屋市獣医師会・学校飼育動物委員会の活動は一人の小学校教頭の依頼から始まりました。平成21年、名古屋市立小学校において、学校飼育の教育的意義の不理解を訴える教師が、全国学校飼育動物研究会の中川美穂子氏を通じて名古屋市獣医師会へ対応を求めてきました。以前から学校飼育に関する講座の受講、全国獣医師会の動向の情報収集を行っていた当獣医師会は学校支援活動を始めました。当初は委員4人での活動でした。

小学校、教育委員会を根気よく訪ねて、学校飼育に関する問題点を聞き、愛知県獣医師会の助言を戴きながら、公益社団法人・名古屋市獣医師会が社会に貢献できる方法について検討を重ね、委員会での活動の範囲を拡げました。

社会的に青少年のいじめや自殺が問題化する中、小さい頃から動物に接することで「命」の教育を行うことは必要です。このような動物介在教育に獣医師のもつ知識と経験を生かして社会支援できることは私たちの喜びです。

## 活動実績

### 1. 動物ふれあい教室

平成22年10月 南稜小学校2年生  
平成23年5月 八熊小学校1年生  
11月 東海小学校3年生  
平成24年4月 御園小学校1年生  
9月 御園小学校1年生  
10月 白水小学校1年生  
11月 山吹小学校1年生  
12月 弥富小学校1年生  
平成25年3月 滝川小学校1年生  
6月 御園小学校1年生  
7月 荒子小学校1年生  
9月 宮前小学校1年生  
10月 白水小学校1年生  
10月 御園小学校1年生

11月 山吹小学校1年生  
平成26年6月 ほのか小学校1年生  
6月 荒子小学校1年生  
6月 御園小学校1年生  
10月 白水小学校1年生  
11月 高木小学校1年生  
11月 御園小学校1年生  
平成27年1月 昭和橋小学校1年生



## 2. 教員セミナー

平成22年1月 庄内小学校教員  
2月 稲生小学校教員  
8月 明倫小学校教員  
平成24年6月 名古屋市教育センター  
生活科教員  
平成25年1月 生活科研究会教員  
(如意小学校)  
平成26年1月 桃山小学校教員

## 3. 放課後学級での活動

(荒子トワイライトスクール)

平成22年7月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
9月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
11月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
平成23年2月 猫と共に「障害」について考える  
3月 犬のふれあい教室  
「思いやりをもつ」  
5月 犬のふれあい教室  
「思いやりをもつ」  
7月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
9月 猫のふれあい教室「動物愛護」  
11月 犬のふれあい教室 「挨拶」  
平成24年4月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
6月 猫と共に「障害」について考える  
8月 犬のふれあい教室 「思いやり」  
平成25年1月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
3月 猫と共に「障害」について考える  
5月 うさぎのふれあい教室  
「動物愛護と学校飼育への親しみ」  
9月 犬の英語教室

11月 犬の英語教室

平成26年1月 犬の英語教室  
3月 犬の英語教室  
8月 犬の英語教室  
10月 犬の英語教室  
12月 「猫のからだ」  
平成27年2月 うさぎのふれあい教室

## 4. 飼育指導

毎年、以下の小学校の児童飼育委員会に年  
1～2回の飼育指導を行っている。

八熊小学校 小碓小学校 名城小学校  
山吹小学校 上社小学校 稲生小学校  
明倫小学校 広路小学校 南稜小学校  
庄内小学校 白水小学校 東海小学校  
稲葉地小学校

## 5. うさぎの導入

平成22年7月 稲生小学校へうさぎ2頭譲渡  
平成23年10月 広路小学校へうさぎ2頭譲渡  
平成24年1月 名城小学校へうさぎ2頭譲渡  
平成25年3月 八社小学校へうさぎ2頭譲渡  
4月 城北小学校へうさぎ3頭譲渡  
5月 上社小学校へうさぎ2頭譲渡  
6月 八社小学校へうさぎ1頭譲渡

## 6. 講演・セミナー

### 学校飼育動物セミナー

「何のための学校教育？」

動物介在教育の意味と獣医師の役割」

日時 平成 22 年 8 月 22 日

会場 名古屋市獣医師会館 2 階大講堂

演題 「園小学校での動物飼育体験の意義と方法」

講師 (社)日本獣医師会

学校動物飼育支援対策検討委員

中川美穂子先生

演題 「動物飼育と小学校理科」

講師 文部科学省初等中等教育局教科調査官

村山哲哉先生

### 市民公開講座「動物と子どものふれあい」

日時 平成 24 年 8 月 10 日

会場 ウィンク愛知 5 階 小ホール

演題 「東山動物園における教育普及活動  
～メダカからゾウまで～」

講師 名古屋市東山動物園教育普及主幹

黒邊雅実先生

演題 「学校動物飼育と教育

～道徳心や生物知識、作文力の育成、  
そして将来の子育ての知識～」

講師 全国学校飼育動物獣医師連絡協議会主宰

中川美穂子先生

### 愛教大における教職員セミナー

(愛知県獣医師会共催)

日時 平成 25 年 8 月 4 日

会場 愛知教育大学・自然科学棟

演題 「適正な学校飼育の方法」

講師 愛知県獣医師会

杉本寿彦獣医師

演題 「学校飼育の意義」

講師 名古屋市獣医師会

柴田恵美子獣医師

### 出張講座 「名南ロータリークラブ」

日時 平成 26 年 1 月 19 日

会場 名古屋マリオットアソシアホテル

演題 「動物介在教育と名古屋市獣医師会の  
取り組み」

講師 名古屋市獣医師会

柴田恵美子獣医師

### 学校飼育を考えるセミナー

学校動物飼育は「いのちの教育」です。

動物介在教育の意味と獣医師の支援

日時 平成 26 年 8 月 21 日

会場 名古屋市獣医師会館 2 階大講堂

演題 「動物と関わる体験と心を育む教育」

講師 帝京大学 教職課程大学院客員教授

矢野英明先生

演題 「学校での動物飼育を考える」

講師 愛知県獣医師会理事

学校飼育動物委員会長

杉本寿彦獣医師

## 7. 学校飼育動物診療

平成 22 年から年間を通じ、学校飼育協力  
獣医師が市立小学校の飼育動物の診察、治療  
を行った。

平成 23 年 38 回

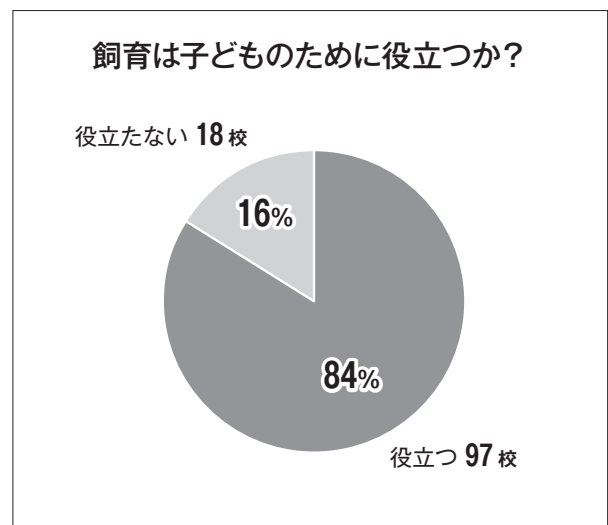
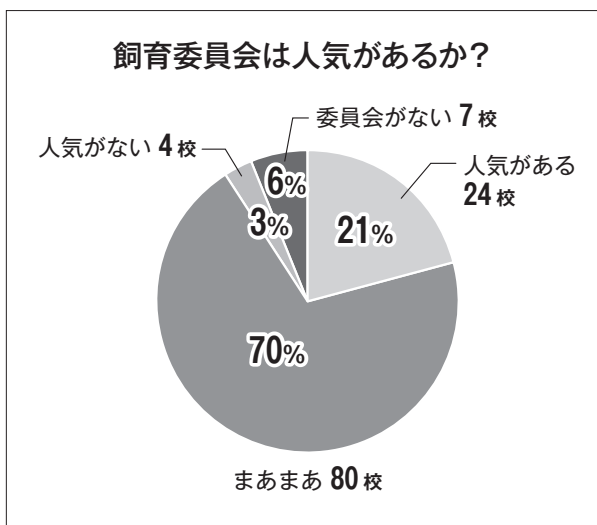
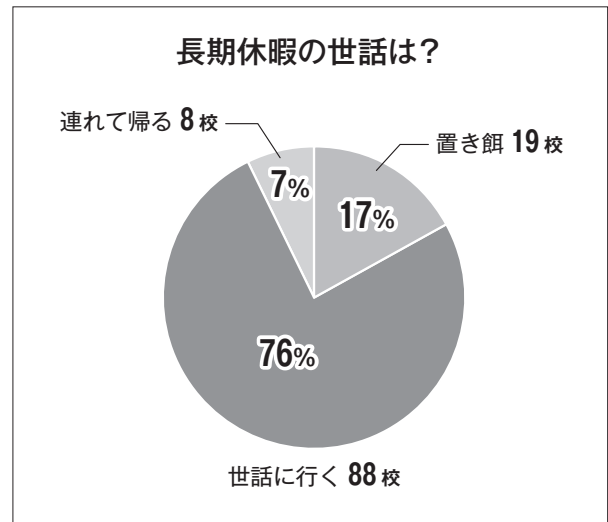
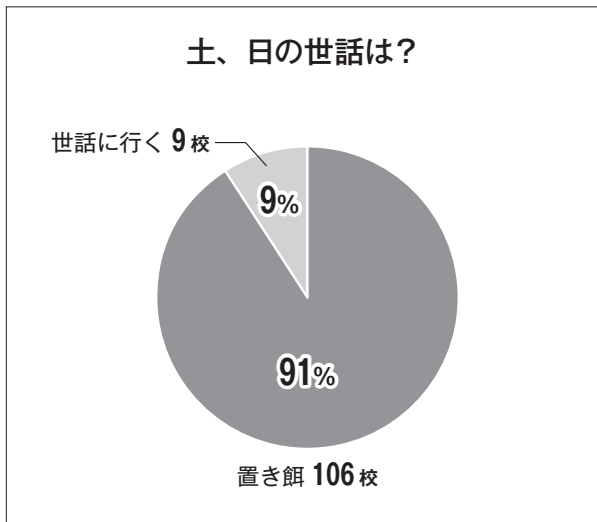
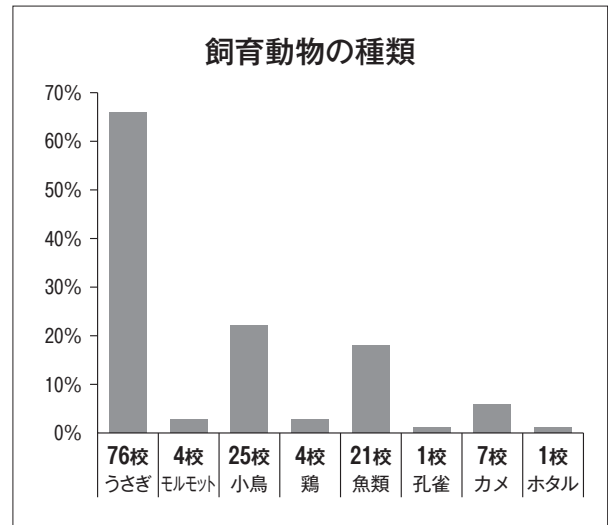
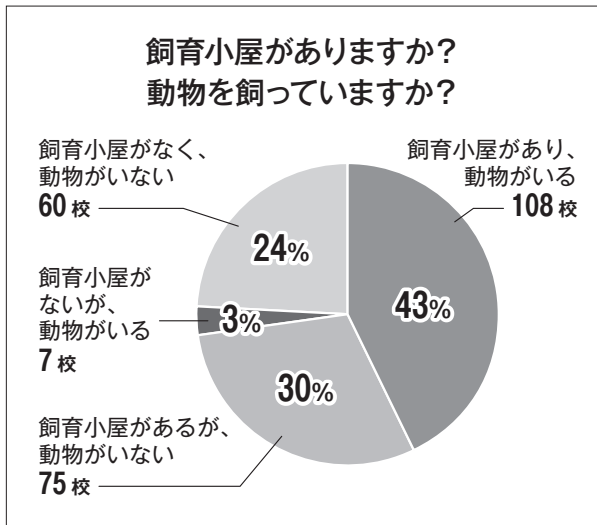
平成 24 年 27 回

平成 25 年 24 回

平成 26 年 19 回

## 8. 飼育に関する調査

平成25年12月 名古屋市立小学校250校における飼育状況調査を教育委員会の協力を得て実施した。



## マイクロチップ推進事業

名古屋市獣医師会では、飼犬、飼猫のマイクロチップ装着を普及推進することにより犬猫の飼主のためのみならず地域住民のための安心安全向上を目的とし、平成 24 年度からマイクロチップ推進事業を行っている。

年 度	上段：上期 下段：下期	犬ID	猫ID	ID装着計	年度別頭数
平成24年度	上期(H24.6～9)	96	49	145	310
	下期(H24.10～H25.3)	86	79	165	
平成25年度	上期(H25.4～9)	104	51	155	309
	下期(H25.10～H26.3)	86	68	154	
平成26年度	上期(H26.4～9)	61	55	116	252
	下期(H26.10～H27.3)	59	77	136	

## なごやかキャット推進事業

名古屋市獣医師会は、名古屋市がのら猫（特定の飼主のいない猫）による問題の解決を目指して、地域の方がのら猫を「なごやかキャット」として適切に管理する場合に、避妊去勢手術費用の一部を助成するなごやかキャット推進事業に平成 25 年度から協力している。

年 度	上段：上期 下段：下期	避妊	去勢	避去計	年度別頭数
平成25年度	上期(H25.6～9)	55	18	73	217
	下期(H25.10～H26.3)	103	41	144	
平成26年度	上期(H26.4～9)	116	41	157	366
	下期(H26.10～H27.3)	146	63	209	

# 50年によせて

## 偉業

公益社団法人 名古屋市獣医師会 監事 三 浦 隆

会員皆様に名古屋市獣医師会創立 50 周年を心からお慶び申し上げます。

獣医師会の会員となって 40 数年、年齢から行くと私のような高齢しか初期の歴史を知っている人は残っていない。大先輩を差し置いて私の過去を思い出している。

瑞穂区の保険代理店の 2 階に小さな事務所があり、男の役員と年配の女性の事務員がいてここが活動拠点だった。大きな事業として狂注があり、この頃は 2 年間の会員資格で狂注事業に隣接の 2 名の開業医の認可で入会できた。その頃は年 2 回、春と秋に狂注事業が行なわれた。現場主義の集合注射は今と大きく変わっていないが、今は新ワクチンと 1 頭 1 針が守られている。過去には限られた数のガラス注射筒で不活化ワクチンの接種量も多く、事故がフィラリア症か寿命なのか多発した。フィラリア症に感染していて平均寿命が 4 歳半の短命な雑種犬が多かった。フィラリアは我々の仕事を増やしたが、予防と対策を飼い主に広く伝えた。新薬の登場で画期的な変化を遂げた。

名古屋市獣医師会は土地が名古屋市から借地となり、その土地に上物を作る事になった。会員の総意で 1 億円近くの負債で、当時としては将来を見越した高層会館を作る。

2 階建だが、新たに耐震化の建築法が変わり、増築の高層化が出来なくなり時代に翻弄される。狂注から 1 頭 200 円の寄出で借入金の返還 (10 年間) をしていたが、途中から税務の見解から収益事業として課税される事になった。新たに消費税がかかり狂注部会計の見直し、会館建設会計、狂注部会入会金 (投資信託金) の後始末、公益法人を維持する為の外部理事の招聘、そして関連事業 (夜間診療所) と共に歴代の優秀な執行部やリーダーのもとに新公益法人の設立と続く。そして大きな仕事として土地の購入とその資金の基金設立と流動している。

同好会としては、古く釣りクラブ、ゴルフ、麻雀クラブ、射撃、テニス、ソフトボール、年 1 回のバス旅行などが会員の参加で開催されていて親睦を兼ねていた。狂注後の総会も終われば日本式の座敷 (春日荘) での宴会で締められる。

今はテニス同好会とソフトボールの 2 つしか残っていないのは会員に時間的余裕がなくなっているからか。

動物医療も時代と共に最先端に向かっている。開業した頃はバイブルの獣医宝典や僅かな参考書しかなく、その後、急速に翻訳本が出て情報が入って来るようになった。今は文献を調べ最新の知識を学会で発表する。情報化時代の中、飼い主も情報をインターネットで学ぶことができる。

新しいことが学会で発表されて知識が蓄積されていき、過去には特異な新しい 1 症例の発表になった。

今は、高度医療が行なわれ延命措置が図られている。一般開業医では救急医療ではあらゆる症例に対処出来ることが求められている。しかしこれが技術を生かせないことや専門性の低下、高額な設備の負担を招いて我々を苦しめる。同じ様な症例が少なく、忘れたところに問題が起こる。また、開業者が増えただけ医療現場が縮小していく。外部の異業種を目にして広く活動の場を広げていく必要を感じている。

過去に大学の同窓会が東京駅のホテルで開かれ、その時に知ったが一部上場企業の青丹社の社長が幹事をしていた。愛媛のアクア・マーリン特殊な水槽の会社、アクリル樹脂の巨大水槽を可能にした人など獣医以外で活躍している人が大勢いる事を知る。

以前には公益法人は資産を持たない、官庁の天下りなどで公共機関が土地、施設、財政など援助を行うのが当たり前だったが、特殊な団体（既得権益）で利益を上げる法人が目につくようになった。それを整理するために公益法人改革がおこなわれた。

我々も自前で会館と土地の購入など、会員のより負担が重くのしかかっている。言い換えればより多くの社会奉仕と会員の結束がより求められる。

新公益法人になって、事業としては申請した事業を行う事が重要になっている。

新規の事業は新たに申請して行わなければならない。利益を公益事業に使わなくてはならない。これでは収支相償を（税を優遇する為に）守ることに重点が置かれ、また厳しい財務基準が課せられ多くの進展も望めない。

ここを改めて国に改善する必要をお願いしなければならない。

年度の事業計画を作成し、社会の貢献度に知識が利益を生む発想が必要で、会員の協力と担当の執行理事の奮起を望みたい。

もう一つは困難な事だが寄付金である。確定申告の際に寄付分の税額控除がうけられる。寄付金が公益法人の運営の助けになることが考えられる。それには広く活動を知って貰う必要がある。

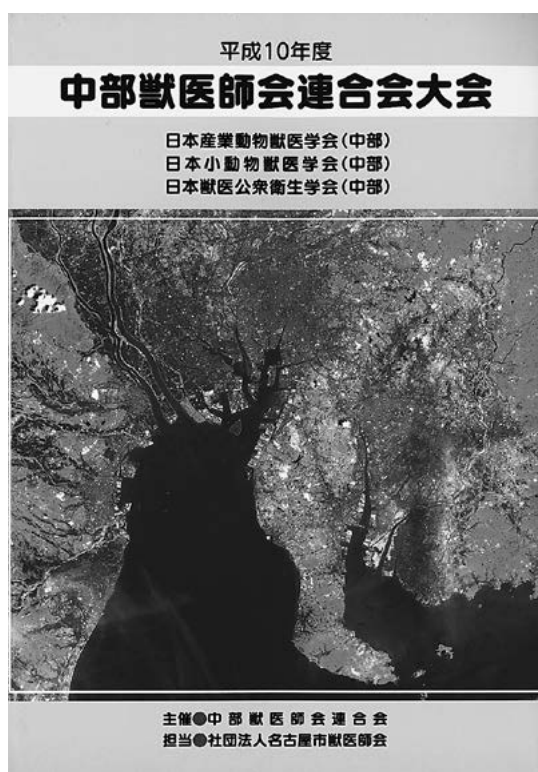
# 衛星写真

社団法人 名古屋市獣医師会 元理事 高取 勝 良

中部獣医師会連合会大会・三学会は8県1市の地方会が持ち回りで担当するため、9年に1度必ず巡ってくる大きな催事で、特に名古屋市獣医師会は他会と違って小動物臨床開業者のみの構成から、産業動物・公衆衛生部門は手薄であるため、準備、運営は会員総動員で手分けして当たらざるを得ない。

平成10年は名古屋の番で、この事業に向けて司馬先生をチームリーダーにプロジェクトチームが前年の7月に結成された。経緯は忘れたが何故か役員でもない私も加わることになり、担当が総務(抄録・広報・記録)となった。抄録作りでは原稿集め、校正などで気の揉めることばかりであったが、抄録の表紙を決めるについても悩んだ。従来、表紙にはご当地を代表する名所を載せるのが通例で、岐阜なら長良川と金華山、石川・兼六園、静岡・富士山などと決まっていた、それに倣えば名古屋なら名古屋城となる。しかし、生来の天邪鬼の私はそれでは面白くない。そこで思いついたのが人工衛星からの俯瞰図であった。ところがその衛星写真の入手方法がわからない、ネットもない時代である。いろいろ探すなかで偶々鶴舞中央図書館に出向いた際、2階の司書受付コーナーの横に日本列島の衛星写真を見つけ、右下に東海大学リモートセンシング技術センターとあった。やっと手掛かりを得て早速東海大学に連絡、モノカラー写真5～6枚を送ってもらい、手順としてはその中から選択して注文する、その時若干の彩色も可能との話で1枚3万円であった。宇宙開発事業団から東海大学が委託されて、アメリカランドサット衛星から送られた画像を学術利用などに限定して販売するシステムのようなのであった。見本を添えて理事会でプレゼンとなり、一部理事から不評な意見も出たが会計担当の駒崎副会長が面白い視点と推して下さり採用となった。

年月を経て改めて抄録を手にすると、なんであんなにムキになってこの構図にこだわったのか、名古屋城でよかったのではとも思ったりするが、知らない分野と遭遇するという貴重な経験もできたし、執行部が若輩者の提案を受け入れてくれた懐の深さもあってのことと感謝している。この会の持つ進取性や度量の大きさといった良き伝統をこの先もさまざまな面で続けていって欲しいものである。



# 表彰者一覧

(順不同・敬称略)

昭和45年9月26日	厚生大臣感謝状	加藤喜尚	平成13年3月18日	厚生大臣表彰	渡辺泰夫
昭和55年11月19日	厚生大臣表彰	都島 勇	平成15年10月27日	民間社会福祉事業功労者 名古屋市長表彰	
昭和60年11月3日	藍綬褒章	堀場利幹		社団法人名古屋市獣医師会	
平成2年11月9日	厚生大臣表彰	加藤喜尚	平成17年9月26日	動物愛護管理功労者	環境大臣表彰
平成3年2月8日	厚生大臣表彰	鷺塚貞長		社団法人名古屋市獣医師会	
	厚生大臣表彰	安形公男			
平成6年11月3日	藍綬褒章	鷺塚貞長	平成20年12月4日	社団法人日本獣医師会創立60周年記念 日本獣医師会会長特別表彰	駒崎精彌
平成7年11月7日	愛知県知事条例表彰	鷺塚貞長			

## ■昭和55年 11月24日 設立15周年記念式典にて

愛知県知事 感謝状	名古屋市長表彰	名古屋市衛生局長 表彰	日本獣医師会長 表彰	名古屋市獣医師会長 表彰	名古屋市獣医師会長 感謝状
堀場利幹 杉浦明	安形左伝 小野西仲 伊垣藤正 三都島博 吉加藤道 成田利堀	中島義 馬淵昇 水谷清 坂本明 林達信 浅野政 長谷川満 岡本繁 石川裕 佐藤金市	原崇 鷺塚貞 安形公 夏目清 辻村浩 神原八 仁	渡辺泰夫 杉浦明 金本勇 司馬健吉	今津重利 駒崎五郎 長屋暉 吉田暢 兼松敦 山原光 土岡俊 三井子 滝浦隆昭

## ■平成2年 10月28日 設立25周年記念式典にて

愛知県知事表彰	名古屋市長表彰	名古屋市衛生局長 表彰	日本獣医師会長 表彰	日本獣医師会長 感謝状	名古屋市獣医師会長 表彰	名古屋市獣医師会長 感謝状
	安形公男 石川裕一 兼松敦 久世正 坂本達 司馬健 杉浦明 夏目清 原鷺塚 渡辺貞 泰夫	神加八仁 加藤謙次 金本睦勇 駒田陸美 佐藤浩昭 辻信之行 藤水逸郎 水山秀俊 吉田暢			土井悦子 青山山夫 安藤重 小島治 駒塚精 中村昌 長馬一 花之内 堀松波 三浦恒 隆	青木克 小田橋 加藤勝 加藤三 神田雅 鈴木雅 福澤正 星野 吉岡 修

## ■平成7年 10月14日 設立30周年記念式典にて

愛知県知事表彰	名古屋市長表彰	名古屋市衛生局長 表彰	日本獣医師会長 表彰	日本獣医師会長 感謝状	名古屋市獣医師会長 表彰	名古屋市獣医師会長 感謝状
加藤喜尚 渡辺泰夫 安形公健 司馬健吉 原久世正	神辻八仁 辻金本之 水谷浩清 佐藤勇 馬淵昇 藤井信 佐藤金 駒田睦 滝山昭	土井悦子 松波恒 中村昌 駒崎精 三浦十 花之内 塚勝治 小島重 安藤山 青芳夫	渡辺泰夫	司馬健吉	加藤喜尚 安形公男 兼松敦 原目清一	杉浦明 成田誠 石川裕 辻金浩 村本 之 勇



■平成13年 3月18日 設立35周年記念式典にて

愛知県知事表彰	名古屋市市長表彰	名古屋市健康福祉局長表彰	日本獣医師会長表彰	日本獣医師会長感謝状	名古屋市獣医師会長表彰	名古屋市獣医師会長感謝状
兼松敦 夏目清 駒崎精 彌	水野逸郎 山岡秀俊 加藤謙次 塚田勝彦 土井隆 三浦昌弘	渡辺仙一 堀宏志 長馬克彦 青木雅昭 鈴木太田雅彦 尾長好昭 高萩曾勝 岩本篤春 三浦川勝	司馬健吉		神原八仁 辻村浩之 佐藤藤井 馬井淵信 滝山金 佐藤山陸 馬井藤田 滝山正 佐藤岡木	青山芳夫 小島治 安藤重 福澤公 山市博 市伊直 中藤謙 浅水光 水長晋 原成一 原隆

■平成18年 2月12日 創立40周年記念式典にて

愛知県知事表彰	名古屋市市長表彰	名古屋市健康福祉局長表彰	日本獣医師会長表彰	日本獣医師会長感謝状	名古屋市獣医師会長表彰	名古屋市獣医師会長感謝状
松波恒彦 塚田勝彦 渡辺仙一	花之内十子 青山島芳美 小安堀重夫 尾長島宏 青鈴木木雅志 青木克彦	吉岡修 神木正 小田橋勝 加藤滿 加藤光 長谷晋 原田幸 小川孝 塩田康 桑原遠	久世正士	金本勇 滝山昭	山田造 伊藤信 中村直 浅水謙 水野光 杉野保 星方一	森村浩文 座島忠司 森中瑞 村川智 加藤典 森田芳 吉比泰 日飛直 飛鈴直

■平成23年 3月31日 創立45周年記念 (震災により式典は中止)

愛知県知事表彰	名古屋市市長表彰	名古屋市健康福祉局長表彰	日本獣医師会長表彰	日本獣医師会長感謝状	名古屋市獣医師会長表彰	名古屋市獣医師会長感謝状
三浦隆	鈴木木正美 神田雅詮 荻曾敏之 小田橋勝三 吉岡満修 加藤満雄	中村和男 福澤公渡 山市博造 市伊藤直信 浅水沼野行 水野光治 林野友一郎 杉方保毅	金本勇	塚田勝彦 中村昌弘	長屋好昭 高取勝良 岩本篤司 三浦春水 座馬忠一 森島隆	齋藤正則 小川幸哉 加藤喜司 高市英之 津田裕

■平成27年 5月31日 創立50周年記念式典にて

愛知県知事表彰	名古屋市市長表彰	名古屋市健康福祉局長表彰	日本獣医師会長表彰	日本獣医師会長感謝状	名古屋市獣医師会長表彰	名古屋市獣医師会長感謝状
荻曾敏之 三浦春水	山市田公造 伊藤直信 浅藤沼謙行 長屋野好昭 水高野光康 岩取本勝良 小川幸哉	星野準明 清座美雄 森島忠司 中川隆一 成柴隆美 鈴村直弘 鷺塚直治 酒井章 小大藪一雄	三浦隆	渡辺仙一	成田至孝 飛田泰男 柴田博 湯木正 土井英 菅沼恭 保田志	小下健治 立郷郁雄 說松道 安田将 水野雅 安野克 水野新 鈴木木 山岡田 岡玉 児寺門 順俊

■ 中部獣医師会連合会表彰

(順不同・敬称略)

日 時	担当県	中部獣医師会連合会会長表彰	中部獣医師会連合会会長感謝状
平成3年9月12日	長野県	加藤 喜尚	安形 公男 鷲塚 貞長 渡辺 泰夫
平成4年8月28日	福井県	鷲塚 貞長	司馬 健吉 杉浦 明一 原 崇
平成5年8月27日	石川県	浅野 政雄 佐藤 金市 兼松 敦	加水 藤謙次 佐藤 寛 野 逸 郎
平成6年8月25日	岐阜県	原 崇 杉浦 明 神 八 石川 裕一郎 辻 村 浩 之	
世界獣医学大会（横浜）平成7年9月3日～9日開催の為 平成7年度は開催されず			
平成8年8月29日	静岡県	佐藤 寛 駒田 睦美	久世 正士 金本 勇 藤井 信行
平成9年8月28日	新潟県	安形 公男 夏目 清一	滝山 昭俊 松波 恒彦 岡 秀
平成10年8月29日	名古屋市	水野 逸郎 加藤 謙次	駒崎 精彌 中村 昌弘 塚田 勝彦
平成11年9月18日	富山県	渡辺 泰夫 藤井 信行 土井 悦子	渡辺 仙一 三浦 隆
平成12年9月2日	愛知県	司馬 健吉 久世 正士	小島 治夫 青山 芳夫 花之内 十美子
平成13年8月25日	長野県	滝山 昭彌 金本 勇 駒崎 精彌	堀 宏允 長馬 一志
平成14年9月7日	福井県	塚田 勝彦 山岡 秀俊 渡辺 仙一	安藤 重忠 青木 克行
平成15年8月9日	石川県	三浦 隆弘 花之内 十美子 中村 昌弘	鈴木 雅彦 吉岡 修
平成16年8月28日	岐阜県	小島 治夫 松波 恒彦 安堀 重宏 青山 芳夫	
平成17年9月3日	静岡県	長馬 一志 青木 克行 吉岡 雅 鈴木 雅彦	
平成18年8月26日	新潟県	鈴木 正美 神田 雅詮 小田橋 勝三 加藤 満雄 加藤 三津典	
平成19年9月2日	名古屋市	福澤 渡 長屋 好昭 山田 公直 市川 博信 伊藤 直行	
平成20年8月30日	富山県	中村 和男 岩本 篤司 浅沼 謙治 水野 光康 杉方 保毅	
平成21年9月6日	愛知県	荻曾 敏之 清水 美雄 高取 勝準 林 友一郎 星 野 準 明	
平成22年9月4日	長野県	加藤 巧 座馬 忠一 中川 隆 操 長谷川 光洋 森 島 隆 司	
平成23年8月28日	福井県	小川 幸哉 齋藤 正則 成田 隆信 原 晋一郎 森 典 夫	
平成24年9月1日	石川県	三浦 春水 加藤 喜司 日比 比 芳美 津田 裕 吉 田 宏 宏	
平成25年8月31日	岐阜県	高市 英之 桑原 康人	
平成26年8月30日	静岡県	該当者なし	

# 公益社団法人 名古屋市獣医師会 定款

## 第1章 総 則

(名 称)

**第1条** この法人は、公益社団法人名古屋市獣医師会と称する。

(事務所)

**第2条** この法人は、主たる事務所を名古屋市に置く。

2 この法人は、理事会の決議により、従たる事務所を必要な地に置くことができる。これを変更又は廃止する場合も同様とする。

(目 的)

**第3条** この法人は、獣医学術の振興・普及、動物愛護精神の普及等を図ることにより、動物に関する保健衛生及び公衆衛生の向上に寄与することを目的とする。

(事 業)

**第4条** この法人は、前条の目的を達成するため、次の公益目的事業を行う。

- (1) 獣医学術の振興・普及に関する事業
- (2) 狂犬病を始めとする人獣共通感染症等の予防、調査及び知識の普及啓発等に関する事業
- (3) 救急獣医療事業及び避妊去勢手術助成等による動物の適正飼養の推進に関する事業
- (4) 動物愛護精神の普及啓発に関する事業
- (5) 学校等における飼育動物の保健衛生、飼育指導及び診療に関する事業
- (6) 野生鳥獣の保護等に関する事業
- (7) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

2 この法人は、公益目的事業以外の事業として次の事業を行う。

- (1) 獣医業の経営改善等の会員に対する相互扶助に関する事業
- (2) 会館等施設の運営に関する事業
- (3) その他この法人の目的を達成するために必要な事業

3 前2項の事業については、名古屋市及びその周辺地域において行うものとする。

(事業年度)

**第5条** この法人の事業年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

(規 律)

**第6条** この法人は、総会が別に定める獣医師倫理規程の理念と規範に則り、事業を公正かつ適正に運営し、第3条に掲げる公益目的の達成と社会信用の維持・向上に努めるものとする。

## 第2章 会 員

(種 別)

**第7条** この法人の会員は、次の3種とし、正会員をもって一般社団法人及び一般財団法人に関する法律（平成18年法律第48号。以下「一般社団・財団法人法」という。）上の社員とする。

- (1)正 会 員 この法人の目的に賛同して入会した、名古屋市内に居住する獣医師又は名古屋市内に診療施設若しくは勤務先を有する獣医師
- (2)賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人又は団体
- (3)名誉会員 この法人に功労のあった者又は学識経験者で総会において推薦された者

(入 会)

**第8条** 正会員又は賛助会員として入会しようとする者は、理事会が別に定める入会申込書により、申し込むものとする。

2 入会は、総会が別に定める基準により、理事会においてその可否を決定し、これを本人に通知するものとする。

(入会金及び会費)

**第9条** 正会員は、この法人の活動に必要な経費に充てるため、総会において別に定める会費規程に基づき、入会金及び会費（以下「会費等」という。）を支払わなければならない。

2 賛助会員は、会費規程において別に定めるところにより賛助会費を納入しなければならない。

3 前2項の会費等及び賛助会費のうち、徴収にあたり別に用途が定められているものを除き、その2分の1以上は公益目的事業のために、残余はその他の事業及び管理費用のために充当するものとする。

(任意退会)

**第10条** 正会員及び賛助会員は、理事会が別に定める退会届を提出して任意に退会することができる。

(除 名)

**第11条** 会員が次の各号のいずれかに該当する場合には、総会において、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決に基づき、除名することができる。この場合、その会員に対し、総会の1週間前までに、理由を付して除名する旨を通知し、総会において、決議の前に弁明の機会を与えなければならない。

(1) この法人の定款又は規則に違反したとき。

(2) この法人の名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をしたとき。

(3) その他除名すべき正当な事由があるとき。

2 前項により除名が決議されたときは、その会員に対し、通知するものとする。

(会員の資格喪失)

**第12条** 会員が次の各号のいずれかに該当するに至ったときは、その資格を喪失する。

(1) 退会したとき。

(2) 成年被後見人又は被保佐人になったとき。

(3) 死亡し、若しくは失踪宣言を受け、又は会員である団体が解散したとき。

(4) 2年間以上会費を滞納したとき。

(5) 除名されたとき。

(6) 総正会員の同意があったとき。

(会員資格喪失に伴う権利及び義務)

**第13条** 会員が前条の規定によりその資格を喪失したときは、この法人に対する会員としての権利を失い、義務を免れる。ただし、未履行の義務は、これを免れることができない。

2 この法人は、会員がその資格を喪失しても、既納の入会金、会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

3 前項の規定にかかわらず、基金の返還については第48条第2項の定めるところによる。

(届 出)

**第14条** 会員は、入会時に、この法人へ届け出た事項に変更が生じたときは、遅滞なく会長にその旨を届け出なければならない。

### 第3章 総 会

(構 成)

**第15条** 総会は、正会員をもって構成する。

- 2 前項の総会をもって一般社団・財団法人法上の社員総会とする。
- 3 総会における議決権は、正会員1名につき1個とする。

(権 限)

**第16条** 総会は、次の事項を決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬等の額の決定又はその規程
- (3) 定款の変更
- (4) 各事業年度の事業計画及び予算の承認
- (5) 各事業年度の事業報告及び決算の承認
- (6) 入会の基準並びに会費等及び賛助会費の金額の決定又はその規程
- (7) 会員の除名
- (8) 長期借入金の借入れ及び重要な財産の処分又は譲受け
- (9) 解散、公益目的取得財産残額の贈与及び残余財産の処分
- (10) 合併、事業の全部若しくは一部の譲渡又は公益目的事業の全部の廃止
- (11) 前各号に定めるもののほか、一般社団・財団法人法に規定する事項及びこの定款に定める事項

(種類及び開催)

**第17条** この法人の総会は、定時総会及び臨時総会の2種とする。

- 2 定時総会は、毎年1回、毎事業年度終了後3ヶ月以内に開催する。
- 3 臨時総会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。
  - (1) 理事会において開催の決議がなされたとき。
  - (2) 議決権の5分の1以上を有する正会員から、総会の目的である事項及び招集の理由を記載した書面により、招集の請求が会長にあったとき。

(招 集)

**第18条** 総会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき会長が招集する。ただし、すべての正会員の同意がある場合には、書面又は電磁的方法による議決権の行使を認める場合を除き、その招集手続を省略することができる。

- 2 会長は、前条第3項第2号の規定による請求があったときは、その日から6週間以内の日を総会の日とする臨時総会の招集の通知を発しなければならない。
- 3 総会を招集するときは、会議の日時、場所、目的である事項を記載した書面又は電磁的方法をもって、法令に別段の定めがある場合を除き、開催日の1週間前までに通知を発しなければならない。

(議 長)

**第19条** 総会の議長は、その総会において、出席正会員の中から選出する。

(定足数)

**第20条** 総会は、総正会員の過半数の出席がなければ開催することができない。

(決 議)

**第21条** 総会の決議は、一般社団・財団法人法第49条第2項に規定する事項及びこの定款に特に規定するものを除き、総正会員の過半数が出席し、出席した正会員の過半数をもって行う。

- 2 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに前項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第24条に定める定数を上回る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

(議決権の代理行使等)

**第22条** 総会に出席できない正会員は、他の正会員を代理人として議決権の行使を委任することができる。

- 2 総会に出席しない正会員が書面で議決権を行使することができるとするときは、総会に出席できない正会員は、議決権行使書面をもって議決権を行使することができる。
- 3 総会に出席しない正会員が電磁的方法で議決権を行使することができるとするときは、法令で定めるところにより電磁的方法により議決権を行使することができる。
- 4 前3項の場合における前2条の規定の適用については、その正会員は出席したものとみなす。
- 5 理事又は正会員が、総会の目的である事項について提案した場合において、その提案について、正会員の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の総会の決議があったものとみなす。

(議事録)

**第23条** 総会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成しなければならない。

- 2 議長及び出席した理事は、前項の議事録に記名押印するものとする。

## 第4章 役員等

(種類及び定数)

**第24条** この法人に、次の役員を置く。

理事 3名以上10名以内

監事 2名以内

- 2 理事のうち、1名を代表理事とし、9名以内を一般社団・財団法人法第91条第1項第2号に規定する業務執行理事とすることができる。

(選任等)

**第25条** 理事及び監事は、総会の決議によって選任する。

- 2 代表理事及び業務執行理事は、理事会において選定する。この場合において理事会は総会にこれを付議した上で、その決議の結果を参考にすることができる。
- 3 前項で選定された代表理事は、会長に就任する。
- 4 理事会は、その決議によって、第2項で選定された業務執行理事より副会長2名以内を選定することができる。
- 5 理事のうちには、理事のいずれか1名及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事現在数の3分の1を超えて含まれてはならない。
- 6 監事には、この法人の理事(その親族その他特殊の関係がある者を含む。)及びこの法人の使用人が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係があってはならない。
- 7 他の同一の団体の理事又は使用人である者その他これに準ずる相互に密接な関係にあるものとして法令で定める者である理事の合計数は、理事現在数の3分の1を超えてはならない。監事についても、同様とする。
- 8 理事又は監事に異動があったときは、2週間以内に登記し、遅滞なくその旨を行政庁に届け出なければならない。

(理事の職務・権限)

**第26条** 理事は、理事会を構成し、この定款の定めるところにより、この法人の業務の執行の決定に参画する。

- 2 会長は、この法人を代表し、その業務を執行する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、この法人の業務を執行する。また、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、前条第4項の規定により副会長が2名選定された場合においては、理事会が予め決定した順序によって、その業務執行に係る職務を代行する。
- 4 会長、副会長及びそれ以外の業務執行理事の権限は、理事会が別に定める。
- 5 会長、副会長及びそれ以外の業務執行理事は、毎事業年度毎に4ヶ月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

(監事の職務・権限)

**第27条** 監事は、次に掲げる職務を行う。

- (1) 理事の職務執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成すること。
- (2) この法人の業務及び財産の状況を調査すること、並びに各事業年度に係る計算書類及び事業報告等を監査すること。
- (3) 総会及び理事会に出席し、必要があると認めるときは意見を述べること。
- (4) 理事が不正の行為をし、若しくはその行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、これを総会及び理事会に報告すること。
- (5) 前号の報告をするため必要があるときは、会長に理事会の招集を請求すること。ただし、その請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする招集通知が発せられない場合は、直接理事会を招集すること。
- (6) 理事が総会に提出しようとする議案、書類その他法令で定めるものを調査し、法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を総会に報告すること。
- (7) 理事がこの法人の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はその行為をするおそれがある場合において、その行為によってこの法人に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、その理事に対し、その行為をやめることを請求すること。
- (8) その他監事に認められた法令上の権限を行使すること。

(任期)

**第28条** 理事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 監事の任期は、選任後2年以内に終了する事業年度のうち、最終のものに関する定時総会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 3 補欠として選任された役員任期は、前任者の任期の満了する時までとする。
- 4 役員は、第24条第1項で定めた役員の員数が欠けた場合には、辞任又は任期満了後においても、新たに選任された者が就任するまでは、なお理事又は監事としての職務を行わなければならない。

(解任)

**第29条** 役員は、いつでも総会の決議によって、解任することができる。ただし、監事を解任する場合は、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決に基づいて行わなければならない。

(報酬等)

**第30条** 役員には、総会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を報酬等として支給することができる。

- 2 役員には、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。この場合の支給の基準については、総会の決議により別に定める。

(責任の免除)

**第31条** この法人は、一般社団・財団法人法第111条第1項の役員賠償責任について、法令に定める要件に該当する場合には、理事会の決議によって、賠償責任額から法令に定める最低責任限度額を控除して得た額を限度として、免除することができる。

(顧問)

**第32条** この法人に若干名の顧問を置くことができる。

- 2 顧問は、理事会において任期を定めた上で選任する。
- 3 顧問は、無報酬とする。ただし、その職務を行うために要する費用の支払いをすることができる。

(顧問の職務)

**第33条** 顧問は、会長の諮問に応え、会長に対し、意見を述べることができる。

## 第5章 理事会

(構成)

**第34条** この法人に理事会を設置する。

2 理事会は、すべての理事で組織する。

(権限)

**第35条** 理事会は、この定款に別に定めるもののほか、次の職務を行う。

- (1) 総会の日時及び場所並びに目的である事項の決定
  - (2) 規則の制定、変更及び廃止
  - (3) 前各号に定めるもののほかこの法人の業務執行の決定
  - (4) 理事の職務の執行の監督
  - (5) 代表理事及び業務執行理事の選定及び解職
- 2 理事会は、次に掲げる事項その他の重要な業務執行の決定を、理事に委任することができない。
- (1) 多額の借財
  - (2) 重要な使用人の選任及び解任
  - (3) 従たる事務所その他重要な組織の設置、変更及び廃止
  - (4) 内部管理体制の整備
  - (5) 第31条の責任の免除
- 3 この法人が保有する租税特別措置法（昭和32年法律第26号）第40条第1項後段の適用を受けた株式（出資を含む。以下本項において同じ。）について、その後取得した同一の銘柄の株式を含め、その株式の発行会社に対して株主等として権利を行使する場合には、次の事項を除き、予め理事会において理事現在数の3分の2以上の承認を要する。
- (1) 配当の受領
  - (2) 無償新株式の受領
  - (3) 株主配当増資への応募
  - (4) 株主宛配布書類の受領

(種類及び開催)

**第36条** 理事会は、通常理事会及び臨時理事会の2種とする。

2 通常理事会は、毎事業年度2回以上開催する。

3 臨時理事会は、次の各号のいずれかに該当する場合に開催する。

- (1) 会長が必要と認めたとき。
- (2) 会長以外の理事から会議の目的である事項を記載した書面をもって会長に招集の請求があったとき。
- (3) 前号の請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知が発せられない場合に、その請求をした理事が招集したとき。
- (4) 第27条第5号の規定により、監事から会長に招集の請求があったとき、又は監事が招集したとき。

(招集)

**第37条** 理事会は、会長が招集する。ただし、前条第3項第3号により理事が招集する場合及び前条第3項第4号により監事が招集する場合を除く。

2 前条第3項第3号による場合は、理事が、前条第3項第4号による場合は、監事が理事会を招集する。

3 会長は、前条第3項第2号又は第4号により理事又は監事から請求があった場合は、その請求があった日から5日以内に、その請求があった日から2週間以内の日を理事会の日とする理事会を招集しなければならない。

4 理事会を招集するときは、会議の日時、場所、目的である事項を記載した書面をもって、開催日の5日前までに、各理事及び各監事に対して通知しなければならない。

5 前項の規定にかかわらず、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続きを経ることなく理事会を開催することができる。



(議 長)

**第38条** 理事会の議長は、会長がこれに当たる。

(定足数)

**第39条** 理事会は、理事の過半数の出席がなければ会議を開くことができない。

(決 議)

**第40条** 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

(決議の省略)

**第41条** 理事が、理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、その提案について、議決に加わることのできる理事の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、その提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。ただし、監事が異議を述べたときは、その限りではない。

(報告の省略)

**第42条** 理事又は監事が理事及び監事の全員に対し、理事会に報告すべき事項を通知したときは、その事項を理事会に報告することを要しない。

2 前項の規定は、第26条第5項の規定による報告には適用しない。

(議事録)

**第43条** 理事会の議事については、法令で定めるところにより議事録を作成し、出席した理事及び監事は、これに記名押印しなければならない。

## 第6章 会 計

(事業計画及び収支予算)

**第44条** この法人の事業計画書、収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに会長が作成し、理事会の決議を経て、総会の承認を受けるものとする。これを変更する場合も、同様とする。

2 前項の書類については、毎事業年度の開始の日の前日までに行政庁に提出しなければならない。

(事業報告及び決算)

**第45条** この法人の事業報告及び決算については、毎事業年度終了後、会長が事業報告書及び計算書類並びにこれらの附属明細書並びに財産目録（以下「財産目録等」という。）を作成し、監事の監査を受け、理事会の承認を経た上で、定時総会において承認を得るものとする。

2 前項の財産目録等については、毎事業年度の経過後3ヶ月以内に行政庁に提出しなければならない。

3 この法人は、第1項の定時総会の終結後直ちに、法令の定めるところにより、貸借対照表を公告するものとする。

(長期借入金の借入れ及び重要な財産の処分又は譲受け)

**第46条** この法人が資金の借入をしようとするときは、その会計年度の収入をもって償還する短期借入金を除き、総会において総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決を経なければならない。

2 この法人が重要な財産の処分又は譲受けを行おうとするときも、前項と同じ議決を経なければならない。

(特定費用準備資金及び特定の資産の取得又は改良の資金)

**第47条** 特定費用準備資金及び特定の資産の取得又は改良に充てるために保有する資金の取扱いについては、理事会の決議により別に定める。

## 第7章 基金

(基金)

**第48条** この法人は、基金を引き受ける者の募集をすることができる。

- 2 抛出された基金は、この法人が解散するまで返還しない。
- 3 基金の返還の手続きについては、一般社団・財団法人法第236条の規定に従い、基金の返還を行う場所及び方法その他の必要な事項を清算人において別に定めるものとする。

## 第8章 定款の変更、解散等

(定款の変更)

**第49条** この定款は、第52条の規定を除き、総会において、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決により変更することができる。

- 2 公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律(平成18年法律第49号。以下「公益認定法」という。)第11条第1項各号に掲げる事項に係る定款の変更(軽微なものは除く。)をしようとするときは、その事項の変更につき、行政庁の認定を受けなければならない。
- 3 前項以外の変更を行った場合は、遅滞なく行政庁に届け出なければならない。

(合併等)

**第50条** この法人は、総会において、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決により、他の一般社団・財団法人法上の法人との合併、事業の全部又は一部の譲渡又は公益目的事業の全部の廃止をすることができる。

- 2 前項の行為をしようとするときは、予めその旨を行政庁に届け出なければならない。

(解散)

**第51条** この法人は、一般社団・財団法人法第148条第1号及び第2号並びに第4号から第7号までに規定する事由によるほか、総会において、総正会員の半数以上であって、総正会員の議決権の3分の2以上の議決により解散することができる。

(公益目的取得財産残額の贈与)

**第52条** この法人が公益認定の取消しの処分を受けた場合又は合併により消滅する場合(その権利義務を承継する法人が公益法人であるときを除く。)において、公益目的取得財産残額があるときは、これに相当する額の財産を1ヶ月以内に、総会の決議により、国若しくは地方公共団体又は公益認定法第5条17号に掲げる法人であって租税特別措置法第40条第1項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

(残余財産の処分)

**第53条** この法人が解散等により清算をするときに有する残余財産は、総会の決議により、国若しくは地方公共団体又は公益認定法第5条17号に掲げる法人であって租税特別措置法第40条第1項に規定する公益法人等に該当する法人に贈与するものとする。

## 第9章 委員会

(委員会)

**第54条** この法人の事業を推進するために必要あるときは、理事会はその決議により、委員会を設置することができる。

- 2 委員会の委員は、会員及び学識経験者のうちから、理事会が選任する。
- 3 委員会の任務、構成及び運営に関し必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

## 第10章 事務局

(設置等)

**第55条** この法人の事務を処理するため、事務局を設置する。

- 2 事務局には、事務局長を置くことができる。
- 3 事務局には、所要の職員を置く。
- 4 事務局長及び重要な職員は、会長が理事会の承認を得て任免する。
- 5 事務局の組織及び運営に関し必要な事項は、会長が理事会の決議により、別に定める。

(備付け帳簿及び書類)

**第56条** 事務所には、法令に定める帳簿及び関係書類を備え置かなければならない。

## 第11章 公告の方法

(公 告)

**第57条** この法人の公告は、主たる事務所の公衆の見やすいところに掲示する方法による。

## 第12章 雑 則

(委 任)

**第58条** この定款に定めるもののほか、この法人の運営に必要な事項は、理事会の決議により別に定める。

附則

- 1 この定款は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律（平成18年法律第50号。以下「整備法」という。）第106条第1項に定める公益法人の設立の登記の日から施行する。
- 2 整備法第106条第1項に定める特例民法法人の解散の登記と、公益法人の設立の登記を行ったときは、第5条の規定にかかわらず、解散の登記の日の前日を事業年度の末日とし、設立の登記の日を事業年度の開始日とする。
- 3 この法人の登記の日に就任する理事及び監事は、次のとおりとする。

理事

大藪 一雄 小川 幸哉 荻曾 敏之 酒井 直治 柴田恵美子 鈴木 直弘  
成田 隆信 三浦 春水 湯木 正史 鷺塚 章

監事

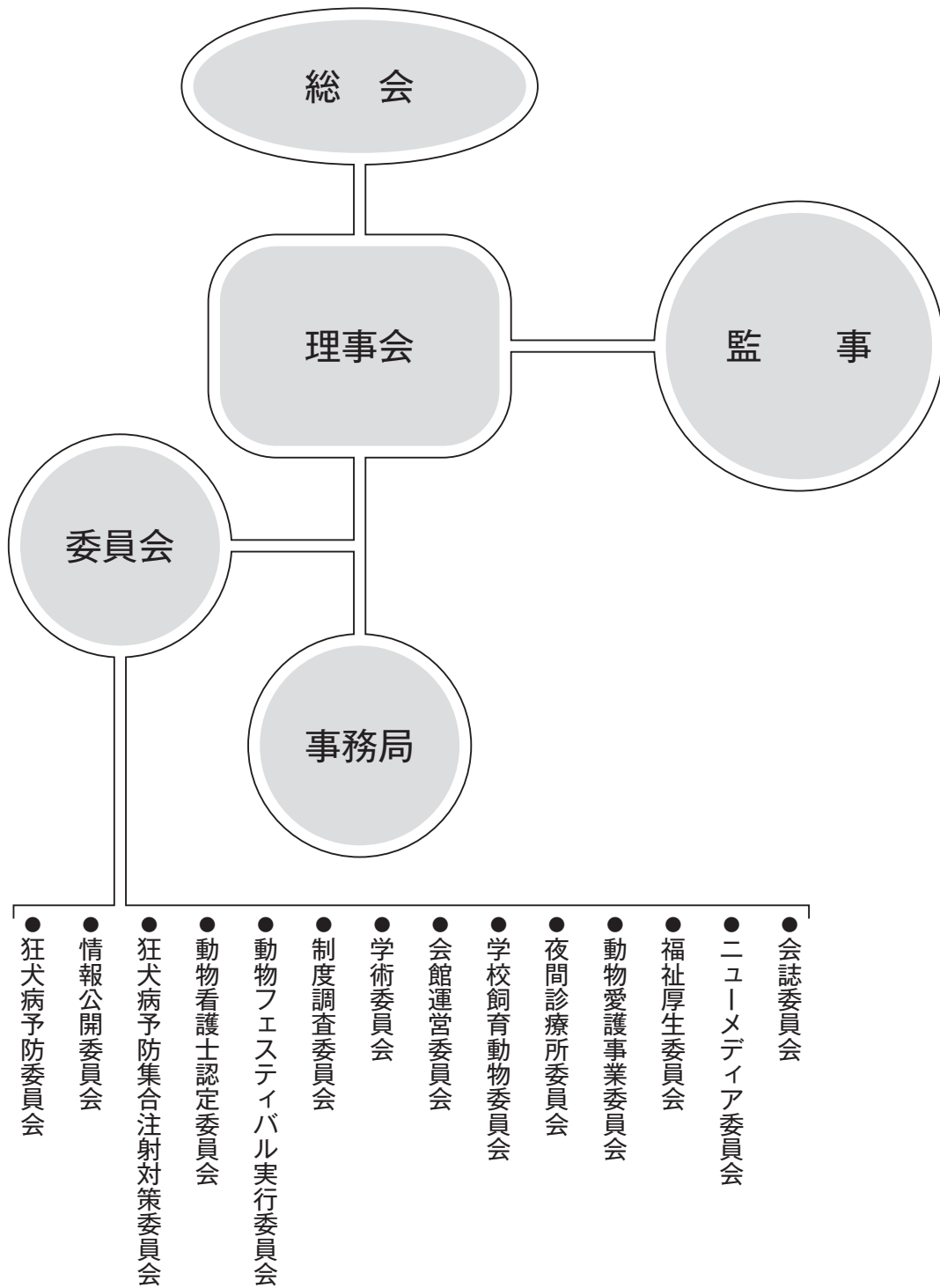
小島健太郎 三浦 隆

- 4 この法人の最初の代表理事は荻曾敏之とする。
- 5 この法人の最初の業務執行理事は、三浦春水、小川幸哉とする。

附則

- 1 この定款の変更は、平成26年5月25日から施行する。

# 公益社団法人名古屋市獣医師会組織・機構



# 正会員名簿

獣医師名	郵便番号	住所	動物病院名	電話番号	FAX	入会年度
岩本 篤司	464-0836	千種区菊坂町 1-7-2 ルミエール覚王山第2 1F	覚王山獣医科病院	761-5230	761-5240	昭和62年
金本 勇	464-0003	千種区新西 1-1-5	茶屋ヶ坂動物病院	773-1866	773-7488	昭和41年
杉方 保毅	464-0044	千種区自由ヶ丘 2-9-26	希望ヶ丘動物病院	762-0112	761-3437	昭和55年
原 晋一郎	464-0031	千種区徳川山町 2-8-22	あい動物クリニック	752-5030	752-4976	平成元年
原 遠	464-0851	千種区今池南 17-7	原獣医科病院	732-1439	733-7440	平成9年
水野 景介	464-0806	千種区唐山町 1-5	東山動物病院	782-2472	781-1559	平成19年
水野 雅之	464-0072	千種区振甫町 2-33	水野獣医科病院	711-7378	712-1288	平成14年
小島 健治	461-0003	東区筒井 3-33-1 小町ビル 1F	小島獣医科病院	935-7488	935-7488	平成7年
小林 祐介	461-0001	東区泉 2-28-18 レジディア高岳 102	高岳動物クリニック	932-8310	932-8310	平成22年
三浦 春水	461-0022	東区東大曾根町 43-6	エム動物クリニック	916-7433	916-7436	平成3年
水野 光康	461-0027	東区芳野 3-5-12	水野動物病院	931-5548	931-5548	昭和54年
齋藤 正則	462-0802	北区上飯田北町 1-19	上飯田動物病院	914-3986	914-3480	平成8年
酒井 直治	462-0844	北区清水 3-18-16	さかい動物病院	916-7530	916-7531	平成9年
大崎 龍也	462-0007	北区如意 1-140	動物の病院中村獣医科	901-8030	901-8023	平成25年
飛田 泰男	462-0037	北区志賀町 4-74	黒川動物病院	917-3298	917-5698	平成4年
青山 芳夫	451-0042	西区那古野 1-3-15	青山獣医科医院	541-0149	541-0149	昭和44年
浅井 悠平	451-0016	西区庄内通 1-40 ミュキモールサウスサイド 1F	コスモス動物病院	508-6836	508-6823	平成22年
伊藤 夏樹	452-0805	西区市場木町 40	なつきどうぶつ病院	506-7970	506-7971	平成18年
伊藤 あゆみ	452-0805	西区市場木町 40	なつきどうぶつ病院	506-7970	506-7971	平成19年
荻曾 敏之	452-0822	西区中小田井 3-391	オギソ動物病院	504-2480	504-2480	昭和63年
小畑 茂	451-0031	西区城西 3-15-5 グランパシオンミスズ 1F	おばたペットクリニック	524-4312	524-7912	平成25年
鈴木 正美	451-0071	西区鳥見町 2-27	名西どうぶつ病院	531-5005	521-1880	昭和50年
山崎 翼	451-0071	西区鳥見町 2-27	名西どうぶつ病院	531-5005	521-1880	平成25年
花之内 十美子	451-0053	西区枇杷島 2-8-6	今津ピワジマ獣医科	551-6683	551-6683	平成43年
山岡 新生	451-0031	西区城西 3-6-6	山岡獣医科医院	531-6445	531-6445	平成16年
山田 浩司	451-0053	西区枇杷島 1-6-26	まんまる動物病院	522-0099	522-0026	平成25年
伊藤 広孝	453-0813	中村区二ツ橋町 1-29-1	ふぁみりあ動物病院	462-8791	462-8792	平成23年
久世 正士	453-0818	中村区千成通 5-29	久世獣医科病院	461-3034	461-3034	昭和44年

獣医師名	郵便番号	住所	動物病院名	電話番号	FAX	入会年度
駒崎 精 彌	453-0036	中村区森田町 3-8-1	駒崎獣医科病院	471-1995	482-7848	昭和53年
渡辺 泰 夫	453-0013	中村区亀島 1-8-23	渡辺獣医科病院	451-5732	452-3725	昭和44年
安藤 将 博	460-0021	中区平和 2-3-5	大井動物クリニック	323-0500	323-0500	平成 8 年
大藪 一 雄	460-0022	中区金山 1-1-19	おおよぶ動物病院	332-1138	332-1170	平成18年
兼松 敦	460-0007	中区新栄 2-1-9 雲竜フレックス東館 1006	バアドクリニック アベス	261-7986	261-7986	昭和40年
後藤 淳	460-0008	中区栄 1-19-28	栄どうぶつ病院	684-4160	684-4161	平成25年
清水 美 雄	460-0021	中区平和 2-13-2	清水動物病院	332-1515	332-1515	昭和56年
高取 勝 良	460-0012	中区千代田 5-14-24	つまい動物病院	241-6413	249-0766	昭和58年
安藤 重 忠	466-0807	昭和区山花町 118	安藤ペットクリニック	751-2712	751-6649	昭和49年
加藤 智 行	466-0815	昭和区山手通 1-17-1 シャンポール山手 A1FA110	TON PETS CLINIC	836-9071	836-9072	平成元年
玉井 康 教	466-0037	昭和区恵方町 2-30	桜山動物病院	853-1215	853-1215	平成19年
夏目 里枝子	466-0852	昭和区萩原町 4-8	夏目獣医科病院	761-6782	763-2006	平成18年
長谷川 光 洋	466-0051	昭和区御器所 3-4-1	ゴキソ愛犬病院	881-3990	872-4610	昭和63年
小田橋 勝 三	467-0878	瑞穂区船原町 2-8	小田橋動物病院	881-5951	883-3883	昭和50年
神田 雅 詮	467-0046	瑞穂区玉水町 2-8	神田獣医科医院	832-7786		昭和50年
高市 英 之	467-0065	瑞穂区松園町 1-2-4	ノアーズ動物病院	836-6660	836-6660	平成 5 年
中村 昌 弘	467-0027	瑞穂区田辺通 2-11-1	獣医科中村病院	832-7554	899-0226	昭和50年
松波 恒 彦	467-0027	瑞穂区田辺通 5-2-11	松波動物病院 メディカルセンター	833-1111	833-1112	昭和50年
松波 登記臣	467-0027	瑞穂区田辺通 5-2-11	松波動物病院 メディカルセンター	833-1111	833-1112	平成23年
鷺塚 章	467-0806	瑞穂区瑞穂通 2-34-2	ワシヅカ獣医科病院	851-2039	851-2099	平成 9 年
鷺塚 貞 長	467-0806	瑞穂区瑞穂通 2-34-2	ワシヅカ獣医科病院	851-2039	851-2099	昭和40年
小川 幸 哉	456-0012	熱田区沢上 2-5-27	おがわ動物病院	671-8543	671-8546	平成 3 年
尾島 雅 之	454-0976	中川区服部 3-703	はとり動物病院	431-0978	431-9977	昭和55年
小坂 智 郎	454-0976	中川区服部 3-703	はとり動物病院	431-0978	431-9977	平成25年
柴田 博 人	454-0921	中川区中郷 3-381-1	中郷どうぶつ病院	355-2720	355-2736	平成12年
柴田 恵美子	454-0921	中川区中郷 3-381-1	中郷どうぶつ病院	355-2720	355-2736	平成 7 年
下山 幸 利	454-0053	中川区外新町 2-66	しもやま動物病院	355-2338	355-2338	平成23年
菅沼 英 人	454-0845	中川区馬手町 1-11-3	オリーブ動物病院	365-1299	365-1300	平成12年
滝本 豊	454-0961	中川区戸田明正 2-2203	グレンタ動物病院	700-4521	700-4522	平成23年
成田 至 孝	454-0015	中川区南八熊町 7-25	成田愛犬病院	682-2400	682-2400	平成 9 年
福田 猛 志	454-0817	中川区南脇町 1-39-1	ふくだ動物クリニック	737-5612	737-5612	平成21年
山田 公 造	454-0877	中川区八田町 205-1	山田犬猫病院	362-8515	362-8515	昭和51年
吉田 宏	454-0957	中川区かの里 1-2702 ファミリー吉田 1F	吉田獣医科中川病院	301-7134	303-7960	平成 2 年

獣医師名	郵便番号	住所	動物病院名	電話番号	FAX	入会年度
小島 健太郎	455-0003	港区辰巳町 4-5	小島獣医院	661-3575	661-3575	平成13年
児玉 順子	455-0076	港区川間町 3-85-1	こだま動物病院	653-2286	653-2286	平成17年
中川 操	455-0883	港区知多 2-2408	中川犬猫病院	303-1291	303-1291	昭和58年
保田 恭志	455-0804	港区当知 3-1202	やすだ動物病院	384-7377	384-7375	平成21年
湯木 正史	455-0021	港区木場町 2-99	湯木どうぶつ病院	694-1125	694-5011	平成11年
市川 博信	457-0038	南区桜本町 19	市川動物病院	823-1300	823-1300	昭和51年
岡田 茂	457-0021	南区鶴里町 1-7	もみじ動物病院	821-0021	821-0521	平成16年
塚田 勝彦	457-0861	南区明治 2-5-13	塚田動物病院	691-3722	691-3722	昭和50年
林 友一郎	457-0835	南区西又兵ヱ町 1-49	大江獣医科	611-1075	611-1687	昭和58年
加藤 満雄	463-0013	守山区小幡中 3-2-1	ノリタケ獣医科医院	792-0098	792-0098	昭和50年
桑原 康人	463-0002	守山区中志段味墓前 2024-1	クワハラ動物病院	736-9948	736-9948	平成4年
桑原 典枝	463-0002	守山区中志段味墓前 2024-1	クワハラ動物病院	736-9948	736-9948	平成4年
鈴木 直広	463-0042	守山区野萩町 7-20	すずむら動物クリニック	795-3411	795-3412	平成5年
立松 誠	463-0036	守山区向台 2-706-1	タテマツ獣医科	774-3151	774-3151	平成16年
日比 芳美	463-0006	守山区川東山 2229	日比獣医科クリニック	793-6346	794-4831	平成2年
大島 真	458-0818	緑区鳴海町大清水 69-14	もろの木動物病院	877-3117	877-3118	平成23年
下郷 郁雄	458-0021	緑区滝ノ水 3-801	滝ノ水動物病院	896-2707	896-3296	平成5年
説田 道明	458-0004	緑区乗鞍 2-1713	セツダ動物病院	877-2778	877-2778	平成8年
滝山 昭	458-0835	緑区鳴海町上汐田 220	滝山獣医科病院	621-0179	621-2020	昭和44年
圓谷 剛	458-0004	緑区乗鞍 1-401-2	徳重動物病院	877-1575	877-6375	平成24年
土井 収	458-0830	緑区姥子山 5-201	鎌倉台動物病院	623-7809	623-7824	平成11年
成田 隆信	458-0804	緑区亀が洞 1-407	熊の前動物病院	877-1186	877-1609	平成元年
堀 宏允	458-0822	緑区大将ヶ根 1-1017	堀犬猫病院	623-6860	622-7921	昭和48年
堀 成子	458-0822	緑区大将ヶ根 1-1017	堀犬猫病院	623-6860	622-7921	昭和44年
森 典夫	458-0033	緑区相原郷 2-1606	森動物病院	624-7558	624-7681	平成元年
森島 隆司	458-0916	緑区有松町桶狭間 愛宕西 23-28	みどり動物病院	624-2815	624-8033	昭和58年
森島 常統	458-0916	緑区有松町桶狭間 愛宕西 23-28	みどり動物病院	624-2815	624-8033	平成23年
浅沼 謙治	465-0053	名東区極楽 3-46-2 ドリーム極楽 202	浅沼獣医科医院	703-9367	703-9367	昭和53年
伊藤 直行	465-0011	名東区山の手 1-913	伊藤獣医科医院	773-6101	773-6101	昭和51年
岩田 寛剛	465-0026	名東区藤森 2-254	本郷動物病院	760-3639	760-3640	平成22年
加藤 巧	465-0073	名東区高針原 2-1511	カトウ動物病院	701-1311	701-1235	昭和60年
座馬 忠一	465-0025	名東区上社 3-206	東名動物病院	702-2227	702-2227	昭和58年
島田 隆幸	465-0091	名東区よもぎ台 2-812	アガペー動物病院	772-6799	772-6799	平成25年
鈴木 克弥	465-0063	名東区新宿 2-298	牧の池どうぶつ病院	705-8288	705-8287	平成16年
寺門 俊博	465-0087	名東区名東本通 5-19	てらかど動物病院	703-1101	703-1189	平成17年

獣医師名	郵便番号	住所	動物病院名	電話番号	FAX	入会年度
三 浦 隆	465-0087	名東区名東本通 4-44 CITY パル	ミウラ動物病院	703-0300	709-2875	昭和45年
三 岡 幸 司	465-0055	名東区勢子坊 1-404	貴船どうぶつ病院	704-5550	704-5551	平成21年
吉 岡 修	465-0035	名東区豊が丘 1204	吉岡獣医科病院	772-8176	776-8617	昭和49年
大 島 太 一	468-0048	天白区中坪町 187	たいち動物病院	896-5556	896-5586	平成25年
柴 田 裕	468-0045	天白区野並 3-484	野並どうぶつ病院	896-1123	896-1171	平成24年
鈴 木 雅 彦	468-0836	天白区相川 2-29	あいおい動物病院	896-4417	896-4417	昭和49年
長 屋 好 昭	468-0024	天白区大根町 6-1	長屋動物医療センター	802-1200	806-0550	昭和58年
星 野 準 明	468-0026	天白区土原 4-826	星野動物病院	802-4339	806-1441	昭和55年
渡 辺 仙 一	468-0012	天白区向が丘 2-122	渡辺獣医科	802-1381	802-1381	昭和53年

**夜間動物緊急診療所**

益 本 友 成	大 西 章 弘	白 鳥 千 恵 子
横 井 祐 子	鈴 木 亜 季 子	石 川 友 美
近 藤 よ しの	永 田 久 美 子	



## 賛助会員名簿

氏名	郵便番号	住所	電話番号	FAX
アークレイマーケティング株式会社	461-0004	東区葵 3-15-31 住友生命千種第二ビル 5F	(050)5536-5700	933-6315
株式会社アスコ	441-3104	豊橋市雲谷町字外ノ谷 256-1	(0532)41-3171	(0532)41-8013
	462-0016	北区西味鏡 2-710	901-1366	901-1382
アニコム損害保険株式会社	161-0033	東京都新宿区下落合 1-5-22 アリミノビル 2F	(03)5348-3777	(03)5348-3922
株式会社アールデザイン	486-0914	春日井市若草通 3-57 メインビル 3F	(0568)29-6405	(0568)29-6406
株式会社インターベツト	102-8667	東京都千代田区九段北 1-13-12 北の丸スクエア 8F	(03)6901-1970	(03)6238-9080
共立製薬株式会社 名古屋営業所	460-0008	中区栄 2-3-16 伏見コンビル	212-0771	205-8090
DSファーマアニマルヘルス株式会社	553-0001	大阪市福島区海老江 1-5-51	(06)6454-8823	(06)6454-8107
同和化学株式会社	462-0005	北区池花町 300	901-3101	901-3104
中北薬品株式会社	461-0033	東区大松町 8-26	935-4636	935-8285
日本全薬工業株式会社	465-0054	名東区高針台 2-303	701-4815	701-4817
日本動物高度医療センター名古屋	468-0003	名古屋市天白区鴻の巣 1-602	933-9901	800-1213
株式会社ファイネス	465-0092	名東区社台 3-179	774-2638	774-2940
株式会社ベッツ・チョイス・ジャパン	486-0802	小牧市川西 1-81	(0120)09-1067	(0568)85-9811
三起印刷株式会社	462-0047	北区金城町 4-53-1	914-3336	914-8764
株式会社ワコーヴィスコム	462-0851	北区木津根町 61	915-0681	915-0671
Meiji Seika ファルマ株式会社	460-0002	中区丸の内 1-16-15 フコク生命ビル 8F	231-2347	202-1940
株式会社堀場製作所 名古屋セールスオフィス	461-0004	東区葵 3-15-31 住友生命第2ビル 6F	936-5781	936-5789
株式会社モノリス	465-0025	名東区上社 4-57-5 第2フェアメント 103	709-6170	709-6188
株式会社クレディセゾン	450-0003	中村区名駅南 1-16-28 NOF 名古屋柳橋ビル 4F	582-0960	582-0970
長楽寺動物霊園	457-0014	南区呼続 4-13-18	811-6036	811-6163
慈妙院動物霊園	487-0021	春日井市東神明町 479	(0568)51-1059	(0568)51-3396

# 物故会員

青木克行

石川裕一郎

加藤喜尚

神原八仁

司馬健吉

杉浦明

夏目清一

堀場利幹

馬淵昇

村上瑞文

(順不同・敬称略)

## 編集後記

私がこの記念誌に関わるようになったのは、平成26年7月に現在の副会長三浦春水先生から理事会で50周年記念誌を作成するにあたり責任者をして欲しいと言われ、断りきれず「まあいいか」と気軽に引き受けてしまったのが始まりです。委員会の仕事を理解しておりませんでしたのでこの委員会がこんなに大変な委員会になろうとはこの時は思っていませんでした。私は記念誌などももちろん作ったことはありませんし、他の獣医師会のものを見たこともありません。とりあえず始めに他の獣医師会の記念誌を探しどのような内容が掲載されているのか調べてみたのですが、他の獣医師会は大動物関係の掲載も多くほとんど参考にならないものばかり、参考になるものは横浜市の記念誌くらいしかありませんでした。また私は平成21年入会ですので会の歴史など全く知らない状況です。発行日が平成27年5月31日と言われましたが、この状況ではいつ頃始めれば記念誌が5月にできるという目途すら立ちませんでした。仕方がないので発行日から10ヶ月も前の平成26年8月に第1回の委員会を開き、まずは何を掲載するのか委員で話し合い検討から始めていきました。それから月に2回委員会を開催していきなんとか載せたいことは決まってきましたが資料は何も手元にない状況です。次の委員会からは地下倉庫のかび臭くなったダンボールを開け、手が真っ黒になりながらアルバムを開いていき、使える良い写真がないか委員全員で探す作業が始まりました。委員のメンバーももちろん50年前のことなど分かるはずもなく、昔の総会資料やあゆみなどを1ページ1ページめくり講演の日にち、タイトルや演者などを探す作業も行ないました。ひたすら資料を集めては必要なものをコピーし、次に印刷会社に編集してもらいまた足りない資料を探し校正し、また分からないところを見つけて行き、その資料を探し……この作業を繰り返すこと9ヶ月やっとこの記念誌の校了を迎え印刷してもらった段階までたどり着くことができました。

この記念誌作成に関わらせて頂いたおかげで、会の50年の歴史をずいぶんと知ることができましたが、この50年間この会は動物のため、市民のため、そして獣医師や動物看護師のために多くの活動に取り組んでいることが本当によく分かります。今まで50年間このような記念誌を作成することはなかったようですので次回作成されるのは100周年の時？かと思いますが、これからもこのような名古屋市獣医師会の活動が継続し続けて行ってくれればと願います。

最後になりましたが、本誌を作成するに当たり多くの先生に原稿をお書き頂きました。事務局の方には多くの資料をご用意頂きました。また、委員の方には資料探し、原稿集めや校正をして頂きました。会誌委員会の方にも校正を手伝って頂きました。皆様のご理解を頂き、お忙しい中でも快くお引き受けて頂きました事に深く感謝致します。本当にありがとうございました。

50周年記念プロジェクト委員会  
記念誌責任者 保田 恭志

# 名古屋市獣医師会 五十周年記念誌

---

製 作 50周年記念プロジェクト委員会  
委員長 三浦 春水  
会計 小川 幸哉  
式典・祝賀会責任者 土井 収  
受付責任者 菅沼 英人  
記念誌責任者 保田 恭志  
委員 伊藤 夏樹  
大島 太一  
小坂 智郎  
玉井 康教

発 行 日 2015年 5月31日

発 行 公益社団法人 名古屋市獣医師会  
名古屋市中区大須 4丁目12番21号  
TEL : 052-263-0700  
FAX : 052-264-9381  
<http://www.nagoyavet.jp/>

印 刷 株式会社ワコーヴィスコム  
名古屋市北区木津根町61番地  
TEL : 052-915-0681  
FAX : 052-915-0671